



## ニュースレター

## 乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 令和6年6月20日

発行者 舞鶴市乳幼児教育センター

## 新たな「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」に基づき、各種研修を実施します

昨年度は、各園校の皆様のご協力をいただき、「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」の改訂を行いました。今年度は、新たなビジョンの実現に向けて、こどもをまんなかにしてみんなでつながり、質の高い乳幼児教育を目指していきたいと思います。各種研修については、引き続き、「保育者研修・育成指標」をもとに、キャリア(経験年数)に応じて実施します。ぜひ、ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

## 令和6年度 乳幼児教育ビジョン推進事業

## 事業全体

- 乳幼児教育ビジョン推進事業 報告会・講演会
- 研修ニュースレターの発行

## 乳幼児教育ビジョンの周知

- 子育て講座、保護者会等での啓発
- 乳幼児教育ビジョンハンドブックの検討
- 保育者向け研修の実施

## 保幼小中接続

- 連携協力園・校による連携活動の充実
- 架け橋期のカリキュラム研究
- 中学校「家庭科」との連携(次世代育成)

## 乳幼児教育の質の向上研修 対象：保育所・幼稚園・認定こども園の保育者、小学校の教員

## 公開保育

- 講師：北野 幸子氏(神戸大学大学院)  
田島 大輔氏(和洋女子大学)
- 保育参観
  - カンファレンス
  - グループワーク

## 乳児保育・教育研修

- 講師：幼児教育アドバイザー(京都府幼児教育センター)  
乳幼児教育コーディネーター
- 講義
  - 保育参観、カンファレンス、グループワーク

## マネジメント研修

- 講師：猪熊 弘子氏(駒沢女子短期大学)
- 講義

## ミニ公開保育

- 講師：乳幼児教育コーディネーター
- 保育参観
  - グループワーク

## 園内研修

- 講師：乳幼児教育コーディネーター
- 講義
  - ・全体的な計画・保育の環境
  - ・ドキュメンテーションほか
  - 保育参観

## ドキュメンテーション研修

- 講師：乳幼児教育コーディネーター
- 講義、グループワーク
  - 企画、運営

## 保幼小連携

- 講師：教育委員会指導主事  
保幼小接続コーディネーター  
乳幼児教育コーディネーター
- 園校参観
  - ・教員は保育、保育者は授業を互いに参観
  - ・講義、グループワーク
  - 連携活動研修
  - ・講義、グループワーク

## 乳幼児教育センター運営会議

学識経験者：北野 幸子氏(神戸大学大学院)  
学識経験者や関係機関等の代表で構成し、乳幼児教育センターの運営、事業等について意見交換

## 令和6年度 発達支援事業

## にじいろ個別支援システム

- 園巡回
- 個別支援検討会議

## 就園前・就園後の支援

- 集団生活育みルーム「にこにこルーム」
- コミュニケーション育みルーム「なかよしルーム」

## 発達支援研修

## 発達支援リーダー研修

対象：保育所・幼稚園・認定こども園等の保育者  
講師：星 紀子氏(京都光華女子大学)  
全 有耳氏(奈良教育大学)  
岡崎 達也氏(京都市児童館学童連盟)

- 講義、グループワーク
- ・乳幼児期の発達と発達障害の理解
- ・特性のある子どもへの支援スキルの習得
- ・家庭及び関係機関との連携

※京都府保育協会と共催

## 合同研修会

対象：保育所・幼稚園・認定こども園・小学校  
中学校・高等学校・支援学校等  
講師：伊藤 駿 氏(京都教育大学 総合教育臨床センター)  
久保山 茂樹氏(国立特別支援教育総合研究所)

テーマ：「インクルーシブな保育・教育を目指して」

- 講義、グループワーク

※教育委員会と舞鶴支援学校トータルサポートセンター共催



## 乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 令和6年10月4日

発行者 舞鶴市乳幼児教育センター

### 「学びを深める 学びをつなぐ」保幼小連携を目指し、研修を実施しました

今年度も、架け橋期(5歳児～小学校1年生)の子どもの姿や学びを保育者も教員も互いに理解した上で、「学びを深める 学びをつなぐ」保幼小連携を目指し、4月、5月と2回の保幼小連携研修を実施しました。

第1回は、4月3日に、小学校の教務主任と1年生担任を対象に架け橋期の子どもの学びや架け橋期のカリキュラムについての理解を基に、各校の「スタートカリキュラム」の改善を図っていただきました。

第2回は、5月21日に、保幼小の保育者・教員を対象に、うみべのもり保育所において4歳児、5歳児の保育公開を行っていただきました。子ども達は、それぞれがおもしろがって行う活動に取り組み、試行錯誤したり、友達と相談したり、一緒にしたりする姿を見ることができました。また、「お話タイム」では、4歳児、5歳児ともに、遊びの中で気付いたことを聞き合い共有したり、次への期待を膨らます姿を見ることができました。

公開保育を通じて、保育者が子どものやりたいという思いを受け止め、継続した遊びを展開することができるように環境を整えることが、じっくりと思考したり、粘り強く取り組んだりする姿につながることを改めて感じました。また、子どもの主体性を引き出す保育者の関わり方や言葉がけの大切さも感じました。

研修の中では、参加者が感想を交流し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに、学びや育ちの姿を共有することができました。その上で、連携活動における5歳児と1年生の期待する子どもの姿や付けたい力を明確にして、今年度の連携活動を計画・実施していただくよう、提案しました。

今年度は、園児数、児童数の変動などを踏まえ、東地区での連携協力園校を一部変更しました。新たな連携協力園校でも、従来の連携協力園校でも、「学びを深める 学びをつなぐ」連携活動となるよう、また、それぞれの園や学校の特徴をいかした活動になるようにするには、事前・事後の打ち合わせが不可欠です。連携協力園校の子どもが遊びながら自然に関わり、5歳児も1年生も主体的に活動できるように、プログラムや関わり方を保育者と教員とがよく相談することを大事していただきたいと思います。

今後、連携活動での期待する姿を意識して、架け橋期の子どもの遊びの姿や学びの姿を保育者と教員とが一緒に見取り、「学びを深める 学びをつなぐ」よりよい連携活動にしていただけることと期待しています。

#### 参加園/校

朝来小学校 余内小学校 池内小学校  
大浦小学校 岡田小学校 倉梯第二小学校  
倉梯小学校 新舞鶴小学校 志楽小学校  
高野小学校 中筋小学校 中舞鶴小学校  
福井小学校 三笠小学校 明倫小学校  
由良川小学校 吉原小学校 与保呂小学校  
八雲保育園 やまもも保育園  
うみべのもり保育所 中保育所  
朝日幼稚園 朝来幼稚園  
永福こども園 岡田こども園  
さくらこども園 シオン幼稚園  
昭光保育園 相愛こども園  
平こども園 橋幼稚園  
タンポポこども園 なかすじこども園  
東山こども園 森のしら幼稚園  
ルンビニこども園 舞鶴こども園  
池内幼稚園 倉梯幼稚園  
中舞鶴幼稚園 舞鶴聖母幼稚園

### 第2回 保育参観 ～うみべのもり保育所～ 〈5月21日〉

子どもが「やりたい」と、おもしろがって行う活動だからこそ、自ら考え、試すことを繰り返し行う姿がたくさん見られました！

#### 【4歳児の学びの姿】

室内では、といを長くつなぎ、転がし遊びをしていました。直角に曲がるところを上手く転がすように、一人で繰り返し傾きや高さを変えて試していました。



また、「ながくつないだといのさいごまでころがしたい」と勢いがつくように箱を積み直して急な坂道を作ったり、「ころがたいきおいでとびださないように、ジャンプさせて、つぎのといにのるようにしたい」と、友達と一緒にといを置く位置を調整したり転がすものを変えたりする姿が見られました。





## うみべのもり保育所公開保育より

園庭では、花や葉っぱをとって、すりこぎですってどんな色になるかなと予想を立てながら、色水を作って楽しんでいました。また、泡と色水を合わせて、色の変化や濃淡を楽しんだり、泡と色水が分離してきれいに層に分かれる様子を楽しんだりしていました。



5歳児が、スライムづくりをしていた影響もあり、4歳児も色水を混ぜてスライムを作っていました。

お話タイムでは、以前に友達が作った「のびるスライム」に影響を受け、友達にスライムを見せながら「くつつくスライムをつくった」と話す子がいました。保育者の問いかけに助けられながら、「せんたくのり3とホウシャすい3いれてまぜたらできた」と話しました。

そこで、保育者は、以前友達が作った「のびるスライム」の割合が書かれたミニホワイトボードに、「くつつくスライム」の割合を書き足されました。絵と数字でかかれ、聞いている子どもたちが分かりやすい工夫がされていました。

保育者に助けってもらいながら、4歳児なりにこれまでに身に付けた言葉を使って、経験したことや考えたことを伝えたり、相手の話を聞いたりし、共感し合う姿がこれからにつながるのだと感じました。



## 【5歳児の学びの姿】

部屋では、「アイドルになる」と歌に合わせて振り付けを自分達で考え踊ったり、「せんせいのふくをつくりたい」「わたしのふくをつくりたい」と4歳児と一緒にビニール袋に絵を描いたり、飾りをつけたりしていました。



園庭では、前の週に自分達の作った家が、土日の雨で濡れたり壊れたりしたので、壊れた部分を直したり、雨にぬれないように、どうしたらよいかを考える姿が見られました。

ビニールを張ってこれ以上家の中が濡れないようにしようと考え、どう張れば中が濡れないか、どうすればビニールが落ちないかを何度も試し、ガムテープで止めたりしていました。

そのそばでは、「あまもりちゅうい」看板を手作りして提示していました。「ぬれていることをつたえたい」という必要感に基づいて文字を書いていた様子が見られました。



「ひみつきちのようなうちのなかで、またあそびたい」という共通の思い(目的)を持ち、自分の考えをもとに、それぞれが自己発揮して取り組む姿が見られました。幼児期の終わりまでに育てたい10の姿のうち、「協同性」「思考力の芽生え」「文字への関心・感覚」の姿が垣間見られました。

お話タイムでは、「今日、楽しんでいたことはどんなことかな」という保育者の問いかけに、アイドルグループで服をつくった時に、ビニール袋がうまく切れなかったけれど、ビニール袋を引っ張ってもらって、はさみで上手に切ることができたことなど、進んで話す姿が見られました。







うみべのもり保育所公開保育より

また、自ら進んで話そうとする子ばかりではありませんので、どの子にも言葉で伝える経験をさせたいという考えから、この日は、園庭で「おうちごっこ」をしていたグループの遊びをクラスに紹介をしたいと、取り上げられました。子ども達は、先週つくった家のビニールの屋根に穴があいて水がもれていたのを、看板を書いたという話などをしました。このグループは、3歳児、4歳児にも、遊びに来てもらいたいという思いがあることを、クラスのみんなども知り、

「もし、じがよめなくて、わからなかったらどうする」  
「じゃあ、いいにいかなあかん」  
「あまもりって、わかるんかな」  
「あまもりは、みずがおちてくることやで」・・・  
と、自分事として聞く姿が見られました。  
聞いてもらえる場があり、聞いてもらえる保育者や友達がいるという安心感の中で、思ったことや考えたこと、気付いたことを、うまく言えなくても話してみようという思いが育っていきます。

第2回保幼小連携研修 【参加者の感想より】

- 保育参観では、毎日くり返して遊んでいるから、今日のような泡あそび、スライム、ボールころがしなどのような遊びが満足して遊んでいると感じました。  
振り返りでは、「どうして～したの」「どうしたい?」「どうなると思う」と子どもの言葉を引きだす保育者の言葉がけがありました。また、スライムを作った子にのりとほうしやの割合をたずねる中でも、自然に数に親しめるようなやり取りが会話にありました。  
講義の中で、連携活動の実例の紹介などがあり、計画を立てたり、話をする中でイメージがしやすかったです。子どものやりたい気持ちを引きだしつつ、一緒に活動する内容の連携にしたいと思います。

- 保育参観では、遊んでいく中で、保育者も一緒に関わっていくけれど、「絶対にこうしないといけない」という保育者の思いがなく、子どもが考えて、試す環境があるからこそ、遊び込める子どもの姿があるということを改めて知ることができました。  
また、グループワークの中で、他の人の意見に触れることができて良かったです。

連携活動では、保育者や教師が活動の設定をするのではなく、子どもの意見を取り入れながら活動を決めていくことで、「イベント」という連携ではなく、小学



生や園児それぞれの良いところが引き出しやすく、つながりを感じやすいものとなっていました。

- 保育参観では、環境設定がとても丁寧にされていたことに一番驚きました。子どもたちの今の興味や関心を踏まえて考えた時に、どんなことをやりたいと思うか、子どもの行動を予想しながらどんなものをどこに配置するか、細かく考えられているのだらうと感じました。また、子どもたちが目指す姿に近づいていけるよう、子どもにさせたい遊びや経験させたいこともあると思うのですが、強制されてするのはではなく、子どもたちが自発的にやりたいと感じられるしかけが様々にちりばめられていると感じました。自発的だからこそ、遊びに夢中になって向かうことができ、興味や探求心を伸ばしていくことができるのだらうと思いました。  
今後、園で積み上げてきた自分で遊びに向かう姿や創造性、試行錯誤する力を学校で途切れさせてしまうことがないようにしたいと感じました。学校では強制される部分が園に比べるとすごく多く、時間も1コマずつ区切られていってしまっていますが、学校での学習も主体的に学びに向かう工夫が、やはり大切だと感じました。単元との出会いのときには、自分が主体的に学ぼうとすることができるわくわくできるような工夫を考えると、自分で思考して遠回りになってもいいから取り組んでみるといったことが授業の中でも取り入れていけるといいなと感じました。

お知らせ

第3回 保幼小連携研修の開催が決まりました！

第3回研修は、園の保育者を対象に、小学校での授業公開とグループワークを行います。1年生が学習に向かう姿を参観していただき、5歳児からの育ちと学びがどのようにつながっていくのか、一貫して大事にしたいことはどのようなことか、などを考える機会にしたいと考えています。多数のご参加をよろしくお願いします。

開催日時：令和6年11月15日(金) 午後

公開学校・担任：明倫小学校 1年1組担任 小嶋 詩乃 先生

## 「学びを深める 学びをつなぐ」保幼小連携～5月から7月までの実践より～

第2回保幼小連携研修後に、各連携協力園校では、『学びを深める 学びをつなぐ』連携活動を意識して実施していただいています。その中で、新たな連携協力園校と希望のあった連携協力園校に、事前打ち合わせから、当日の連携活動、事後の振り返りまで参加させていただきました。

1園1校、複数園1校と規模が異なり、また、園での実施、小学校での実施、それ以外の行きなれた場所での実施と場の環境が異なり、活動内容も様々ですが、どの連携協力園校でも、事前の打ち合わせをする中で、保育者と教師が徐々に和やかに話し合いをされるようになり、連携活動当日は、互いを気遣われながらも連携活動で架け橋期の子ども達に求める姿を意識して、関わっておられました。一部ですが、紹介します。

## 倉梯第二小学校

## さくらこども園 ひばり幼稚園 森の子ら幼稚園

連携協力園校が多いので、第1回は、ゲームをして楽しく遊ぶ中で、顔や名前を覚えるとともに、自分の考えたことや気付いたことを伝えようとする姿を期待して取り組まれました。

各園校の保育者・教師が事前に役割分担して準備し、前に立ったりどの子たちにも関わったりすることで、子ども達は安心して楽しんでいました。

「もうじゅうがりにいこうよ」では、猛獣の写真を提示され、猛獣の名前を繰り返し言われたので、集まる数が分かりやすく、子ども達は声をかけあって、集まっていました。

「ジャンケンれっしや」は、ピアノの演奏でされ、テンポがゆったりしていたので列車がちぎれず、子ども達がうまく列に連なって動



時間を設けられ、「近くの人と相談しよう」と言葉をかけられました。

すると、近くの子たちに「もうちょっとこっちよって」と言葉をかけ、周りに聞かれないように頭を寄せ合って相談したグループがありました。



## プログラム

- 1 はじまりのかい
- 2 もうじゅうがりにいこうよ
- 3 ジャンケンれっしや
- 4 マットひきゲーム
- 5 おわりのかい

いていました。「マットひきゲーム」は、中央に置かれたマットを両側から引き合い、マットを自分達の陣地に引き入れたら1点、大きなマットは3点で、点数の合計で競います。途中で、作戦会議の

「このみんな(6人)で、しろい3ポイントのマットをとる？」

「ちがう、ちがう、ちがう。3人と3人で、おっきいしろいマットと、おっきいオレンジのマットをとる」

「おれ、ちっちゃいマット、2つ」

「おっきいやつからとる」

「じゃあ、1、2、3人でしろ、1、2、3人オレンジ」・・・

それぞれの考えをいきいきと出し合い、自分達で考えた作戦を試す姿が見られました。

終わりの会では、「また一緒に遊びたいな」という感想を受け、「次はどこかにお出かけしようか。いい季節だし、外もいいかもね」と話題が移り、「赤迫池で、みんなで、生き物探してあそぼう、ザリガニみつけようか」とまとまりました。

「生き物がいる？」「かに」「ザリガニ」「おたまじゃくし」「さわれる？」「何を持っていこうか」と、期待を膨らませてお別れしました。

第2回は、東舞鶴公園で待ち合わせて、赤迫池に行き、生き物を捕まえに行きました。

持ち物は、各園や学校で、子ども達と相談し、網やバケツのほか、手作りの網や竿を作って持ってきている園もありました。



ザリガニを捕まえようと、池に果敢に入る1年生に負けじと、5歳児も入ります。虫探しに夢中な姿も見られました。

生き物を捕まえようとする中で、自然な形で関わり合いが見られました。

## グッドポイント！ 「考えを伝え合う」「試す」

5歳児が日頃から親しんでいる遊びや、5歳児にも1年生にも分かりやすいルールของเกมを取り上げられ、その中で、5歳児も1年生も考えを伝え合い、試す場面を入れられた連携活動でした。





新舞鶴小学校1年1組  
シオン幼稚園、朝日幼稚園

学級ごとに連携園校を決めて、取り組まれました。

新舞鶴小学校1年2組  
昭光保育園、うみべのもり保育所

「1年生が教え、5歳児が教えてもらう」というように、一方的な活動ではなく、園や学校でやっていることを、それぞれが自信をもって紹介し、お互いに教えたり、教えてもらったりしながら、楽しく遊べるようにしたいと、お互いの様子が見やすい小学校の中庭と暑さ対策を兼ねて体育館を使って計画されました。

- 1 はじまりのかい
- 2 各コーナーでのみずあそび
- 3 おわりのかい

はじまりのかいで、1年生は、スライムや育てたアサガオの花を使った色水づくりを紹介。シオン幼稚園は、園でよくしている泡遊びを紹介。朝日幼稚園は、色水シャボン玉を使って絵を描く遊びを紹介。その後、各コーナーで、教え合ってやりたい遊びに取り組みました。

アサガオから色を出したり、色を混ぜたり、スライムの材料を混ぜたり、ストローを切ったり、何度も試したり、教え合ったりしながら、思い思いに作っていました。



おわりのかいでは、1年生も、5歳児も、偏ることなく言えるように進められました。また、「試行錯誤」を「実験」という言葉で振り返られ、粘り強かずねられたので、気付いたこと、工夫したこと、実験したこと、今度一緒にやってみたいことなど、多くの発言が聞かれました。



「あかいあさがおのいろみずでスライムをつくったのに、いろがかわった」

「スライムがかたまらなかったで、みずいれたら、かたまった」  
「ゆっくりしゃぼんだまをふいたら、えができました。にじのえができました」

「つぎは、ペットボトルにてんすうをつけてやるゲームをみんなでしたい」

自分の言葉で息長く話す姿と、よく聞く姿が見られました。



**グッドポイント！ 「工夫する」「言葉で伝え合う」**

また、自分の言葉で気付いたことなどを伝えたり、聞いたりすることを大切にされた連携活動でした。

それぞれにやりたい遊びを楽しみ、自然に関われるようにしたいと、日頃園で5歳児が親しんでいる遊びを中心にコーナーを設け、それぞれがやりたい遊びと一緒に楽しみました。

- 1 はじまりのかい
- 2 各コーナーでのあそび
- 3 ジャンケンゲーム
- 4 おわりのかい



うみべのもり保育所でしているサーキット遊びを順に楽しみながら、途中で「こうしたほうがおもしろい」と自分達でルールを変えながら挑戦し、汗がびしょ濡れになりました。

園庭では、1年生が自分で作った水鉄砲とプラスチックコップの的を持ってきたので、的あてを楽しむグループもありました。横に並べていた的を、ピラミッドに積み替えたり、どうしたら当たるか試したりしていましたが、そのうちに水の掛け合いっこになり、びしょびしょになりました。



また、昭光保育園で作った色水を凍らせて持ってきていたので、氷の色水を溶かし、色を混ぜたり、石鹸から泡づくりをしたり、木の実で色水づくりをして楽しむグループもありました。そばで、お互いの様子を見ていましたが、やがて教え合ってじっくり遊んでいました。

氷づくりも、色水を作って、「れいぞうこにいれて」と保育者に頼んでいました。（「冷蔵庫」ではなく、「冷凍庫」だという訂正は、その時はまだされていません。）「明日、氷ができたかどうか、お知らせするね」と、約束されていました。

ジャンケンゲームは、園で流行っているゲームをその場で教えてもらい、ピアノ伴奏と歌に合わせて皆でしました。5歳児と1年生が一人ずつ出てきて、負けたら交代する足ジャンケン対決で、恥ずかしかったり自信がなかったりする子は、保育者と一緒にしました。

勝負で勝ったのは1年生、並び方で勝ったのは5歳児でした。

チームとして応援し、集中して楽しんでいました。



三笠小学校  
橘幼稚園

第1回は、「自然な出会い」を意識され、三笠小学校に散歩に来た5歳児を、1年生が見つけ体育に誘うという出会いで始まりました。「一緒に体操したり遊んだりして楽しく過ごし、なかよくなる」という、大きなねらいでした。

1年生と一緒に体操をした後、鬼ごっこをすることに話がまとまりました。園の保育者も小学校の教師も一緒にルールの説明をされました。

鬼は、小学生からスタート。広いグラウンドを使って、追いかけたり逃げたり…。グラウンドが広くて、鬼が友だをなかなか捕まえられないので、次は、逃げる範囲を狭めてしました。今度は程よい広さで、鬼ごっこを楽しみました。

「もうじゅうがりにいこうよ」は、園の保育者がリードして、始まりました。途中で、「まえにでてやりたい」と言った子に交代し、1年生が前に立ち、ゲームをしました。

保育者や教師は、ついつい、子どもが一人にならないように言葉をかけたり、手を引いたりしてしまいます。もう少し見守って、子ども達に任せてみることはできないことなのかなと、事後の振り返りで話題になりました。

すごく楽しかったので、また遊びたい、次は、橘幼稚園に行かせてもらおうと相談合いました。

第2回は、約束どおり、橘幼稚園で、「もっとなかよくなろう」というねらいでされました。

仲良くなるためには、

「5にんのなまえをおぼえる。」

「じぶんからはなしかける。」

など、1年生は、具体的に自分の目当てを持って参加していました。

園からも小学校からもダンスを紹介して一緒に踊った後、グループづくりをしました。

「1年生と5歳児の数ほぼ同じようなグループを6グループ作

- 1 であい、たいそう
- 2 おにごっこ
- 3 もうじゅうがりにいこうよ
- 4 おわりのかい



りたいので、『1年生4人以上年長5人以上のグループを作りましょう』というミッション。子どもたちは、自分達でクリアしようと、手をつないで友達を探したり、「ひとりきて」と声をかけたりして、がんばっていました。

- 1 はじまりのかい
- 2 ダンスのしょうかい
- 3 グループをつくりましょう
- 4 てつなぎ  
だるまさんがころんだ
- 5 ドッジボール
- 6 おわりのかい



「どうしたらうまくいくかな」とたずねられたり、人数を一緒にかぞえたり

しながら子ども達の考えを引き出され、「ぼく、うごいてもいいよ」と譲り合って、みんなで6つのグループに分かれることができました。

グループでは、自己紹介をし、グループの名前を相談して決めました。

自分達で作ったグループ対抗で、ゲームが始まりました。「だるまさんがころんだ」をグループで手をつないで行い、グループの中の一人でも動いたらスタートに戻ります。全員がゴールラインを先に越えたグループの勝ち。息をのんで動かないように止まっていた。



ドッジボールは、当てようとねらって投げたり、必死で逃げたり…。年齢に関係なく、楽しんでいました。

おわりのかいは、その場では長くされませんでした。小学校に戻られてから、振り返りをされました。

「たのしかったから、また、あそびたい。」

「10にんのなまえをおぼえた。」

「なまえをいえないこがいたから、そっときいたら、いえたよ。」など、一緒に遊ぶ中で、相手を意識する姿が見られました。



## グッドポイント！ 「考えを伝え合う」「関わる力」

1回目の連携活動を踏まえ、2回目は、保育者や教師は、必要なこと以外は口を出したいところをぐっと待って、子ども達が考えてグループを作ったり、グループの名前を考えたりする姿を見守られました。5歳児も1年生も考えを出し合い、グループの友だを意識して力を合わせてゲームを楽しむことを大切にされた連携活動でした。





## 乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 令和7年1月20日  
発行者 舞鶴市乳幼児教育センター

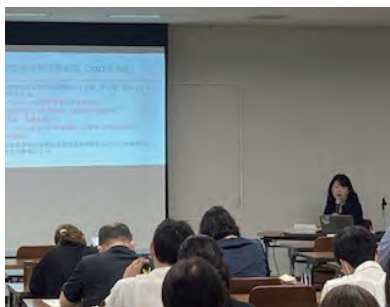
5月24日(金)マネジメント研修を開催しました。

園長、副園長、主任、副主任、ミドルリーダーの保育者を対象とした、マネジメント研修を実施しました。講師には、駒沢女子短期大学 教授 猪熊弘子先生をお迎えしました。

猪熊先生は、現在までに起きた乳幼児教育現場での重大事故や不適切保育について、多く取材され、なぜそのようなことが起こったのかを研究し、未然に防ぐためにはどのようなことが大切かを、全国で発信されています。日ごろの保育の延長線上に事故や不適切な保育があることを、多くの資料と共に講義していただきました。

大切な命を預かる現場として、保育の在り方と共に危機管理の在り方を参加者の皆様と共有することができました。

日時：令和6年5月24日(金)  
18:00～20:00  
会場：西総合会館 4F



### 参加園/校

朝日幼稚園	朝来幼稚園
池内幼稚園	うみべのもり保育所
岡田こども園	さくらこども園
昭光保育園	相愛こども園
タンポポこども園	東山こども園
中保育所	中舞鶴幼稚園
舞鶴こども園	舞鶴聖母幼稚園
八雲保育園	やまもも保育園
ルンビニこども園	

(五十音順)

### 1 幼児教育・保育で一番大切なことは子どもの命を守ることである

◎重大事故で失われる、「命」と「信頼」は、子どもの命だけでなく、先生たちの仕事や、人生をも奪ってしまう。つまり、大切な命を守ること＝職員一人一人の人生と園を守ることにつながる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」  
ア健康な心と体  
園の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

※『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』より抜粋

◎いずれ「自らつくり出す」ことができるようになるための基礎を育てる段階であり、5歳までの安全は大人が守る。

◎その基礎はさらに0歳からの丁寧な関わりと言葉かけが大切であり、泣いたら、「お腹がすいたね」「転んで痛かったね」などの言葉をかけるなどプロセスが重要である。

◎「いのちを守る」とは、一人一人の子どもの存在を大切に守り、子どもが安心して生きられる場所であること。これが子どもの生きる権利である。

◎「一人一人」を見ることが、「命を守る」ことにつながっている。

◎保育の基盤として重要な「養護」とは、命の保持は保育者がやるべきことであり、情緒の安定は子どもができていることと捉える。

◎「養護」の精神にあるように、一人一人の違

いを把握し認め、ていねいに寄り添う幼児教育・保育が安全のためには、最も重要である。「一人一人」への保育をいかに実践するか。ここを徹底することが安全な保育につながる。

#### 「養護」の精神～保育指針の「養護」(8項目)より生命の保持(4項目)

- ①一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする。
- ②一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする。
- ③一人一人の子どもの生理的欲求が、十分に満たされるようにする。
- ④一人一人の子どもの健康増進が、積極的に図られるようにする。

#### 情緒の安定(4項目)

- ①一人一人の子どもが、安定感をもって過ごせるようにする。
- ②一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。
- ③一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする。
- ④一人一人の子どもがくつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする。

※『保育所保育指針』または、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(第3幼保連携型認定こども園として特に配慮されるべき事項)

### 2 死を招いた保育

◎〇〇くんがたいへん！となぜ子どもが先生に言わなかったのか。

#### 『上尾保育所事件』

- ・2005年8月10日
- ・園内の本棚の中で4歳児が熱中症で死亡
- ・本来はプールの予定を急遽園外保育に変更し、帰ってきてから子どもは自由に遊んでいた。(ほったらかしであった)
- ・給食の皿が一つ余ったことで初めて児童がいけないことに気が付いた。(席が決まっていなかった)
- ・思い込みで園外を探したが見つからず、本棚の下で発見！

#### (裁判最終準備書面より)

「本件事故は、決して不慮の事故ではなく、日常の保育に多くの問題があり、その問題を放置した故に起きた、起こるべくして起こった事故である。」

◎子ども同士の人間関係ができていなかった。⇒先生同士や親同士の仲がよくないとできない。

◎子どもたちは大人を信用していなかった。⇒「養護」情緒の安定②には、保育者と子どもの信頼関係が必要とある。

◎「見失い」にもう一つの条件が重なり、重大事故になった事例は、何度も起きている。公園等への置忘れ・置き去り事故も重大事故未遂と捉えられる。

◎ヒューマンエラーを防ぐために機械を導入することも重要であるが、ただボタンを押したり、タグを読み取ったりすることが目的になると意味がない！あくまでも職員が目視プラス指差しでしっかり確認することが大切である。その上の導入でないと意味がない。

◎置き去り、見失い事故を防ぐには、子どもの人数確認、存在把握を確実にすることが大事である。

- ・人数の数え方のマニュアル化をする。  
「先輩を見て覚える」は、NGである。
- ・アプリ等のICTをつかって、出席確認はアナログで行う。
- ・職員間の共有を確実なものにする(インカム等を使い、職員間がこまめに連絡できるようにする)など。
- ・園バス通園、早番、遅番等の通常の保育時間プラスアルファの時間がある園児に関する出席確認の方法を確立する。
- ・保護者への協力を求める。

★やっておくべきことその1＝人数把握の方法(数える・お名前を呼ぶ)を確認し、マニュアルしておく。

### 3 安全な保育をするための具体的な方法

◎組織が事故を引き起こす！園運営・組織の在り方を再確認することが大事である。

◎保育の重大事故を起こすのも、防ぐのも、人と人のつながりの中にある。

「これっておかしいよね」

「こうしたほうが良いかもね」

「みんなで考えよう！」

が言えることが大事である。

◎子どもの命を守るために誰かに付度したりせず、自由に意見を出し合える職場にすることが必要である。そのために、職場でどのように組織づくりをするかを考えていかなければならない。

◎まずは園内の見取り図を作成し危険箇所を職員全員であぶり出し、把握する。

- ・まずは見取り図を用意する。
- ・自分が一番いやな場所を一人5か所付箋で貼る。
- ・共有して改善する。

★やっておくべきことその②

※見取り図から、気になる、問題があると

感じたら、

- ・「ハード」と「ソフト」を変える。ハード＝環境、物の形状、置き方、等
- ・ソフト＝人の在り方、日とのかかわり方、人間ができることを変える。

◎コロナ禍で、保育者が口の動きを見せることができていない。家庭でも、もぐもぐ、ごっくんを教えてもらえるように保護者に伝えることも必要である。

◎実は、そもそもプール遊びが必要なのか、と考えることも必要である。プール遊びを止めたところも多い。

◎「熱中症」に注意！環境省の「熱中症予防サイト」を必ず読む。WBGT計を用意して園の危険を調べる。プールの中でも熱中症になる。

◎無理に寝かせる、無理に食べさせる、発達を無視した活動をさせることが事故を招いている。

- ・1歳2か月児がリングで窒息
- ・4歳児が墓の下敷きになって死亡
- 他にも
- ・赤ちゃんをうつ伏せ寝にして、その上から毛布をのせた。泣いた赤ちゃんを別室に入れた。押し入れに入れた。
- ・冷房もない熱い部屋に毛布でぐるぐる巻きにした赤ちゃんを放置した。
- ・真っ暗な部屋で赤ちゃんをうつ伏せ寝にして放置した。
- ・監視をつけずにプール活動を行い、子どもが溺死した。など

保育中最も危険な場所と年齢

①0、1歳児	睡眠時
②1、2歳児から全年齢	食事中
③3歳以上	水遊び中

つまり、危ないのは

くう ねる みずあそび

＋園外活動、お散歩等

※子どもの傷害予防に取り組むNPO法人「Safe Kids Japan」理事長 小児科医 山中龍宏先生より

くう時

- ①食べること＝危険という認識を持つ45mm×32mm程度の大きさでのに詰まりやすい。形状に注意する。
- ②保護者と一緒に、子どもの嚥下の発達、歯の生え方、食べられるものを把握する。
- ③子どもがきちんと飲み込んでいるかを確認する。様子が見えやすい位置で見守る。
- ④眠くならない時間に食事を提供し、急いで食べさせない。お弁当や、行事食にも注意する。

窒息しやすいものに注意する

乾いた豆、ナッツ類、飴、チーズ、ポップコーン、せんべい、ベビーカステラ、ブドウ、プチトマト、リング、たくあん、生のニンジン、セロリ、もち、白玉だんご、ウズラの卵、ちくわ、魚肉ソーセージ、こんにゃく、肉片、スーパーボール、小さな玩具類(磁石)

※生のリングは危険！

子どもによく言われているリングだが、アレルギー、バサバサしているなど、死亡事故は、過去には何件も起きている。  
※ブドウの皮も2020年4歳児が窒息で死亡している。提供するなら切る。

ねる時

- ①必ず、仰向けで寝かせる。
- ②明るい部屋で(体調の急変を知る)
- ③必ずタイマーを使い、身体に触れて、確実に呼吸チェックする。
- ④寝具などが顔にかからないように周囲の物に気を付ける。

みずあそびの時

- ①10センチの深さでも、子どもは溺れる。
- ②溺れるときは静かに溺れる。
- ③必ず「監視」する人を置く。(全体を見渡せる場所、子どもより先にプールサイドに)沈んでいる子がいらないか確認する。
- ④子どもの体調、水の深さに注意する。

※自由に泳いでいいよ！⇒事故を起こしがち

◎命を守るために必要なことを知らない保育者が保育している。研修の機会やアップデートがないことが課題である。

### 4 不適切な保育が重大事故につながる

◎実はよくある不適切保育

- ・子どもを頭ごなしに叱る。
- ・子どもを怒って泣かしている。
- ・子どもの発達を見ないで、栄養士が食べたものを作って出している。
- ・子どもが持てないような陶器の立派なお茶碗を使っている。
- ・遊ぶものが何もなく、ただぼつたらかしている。

・子どもの発達に合わない玩具しかない。など  
◎子どもの権利が全然守られていないのが普通になっていないか！考えてみてほしい。

◎『不適切な保育の未然防止及び発生時の対応についての手引き』(2021年厚生労働省)と新たに『保育所等における虐待等の防止及び、発生時の対応に関するガイドライン』(こども家庭庁R5年5月)が作成された。これらは世界共通の定義である。

◎日々の保育の中で振り返りが大切

- ・日々の保育の振り返りの中で、『人権擁護のためのセルフチェックリスト』などを活用する。
- ・言葉でうまく伝えられない子どもの気持ちを汲み取り、子どもの人権擁護の観点から「望ましい」と考えられる関わりができていのかどうか振り返る。
- ・「望ましくない」と考えられる関わりをしていた場合も、していなかった場合も、個々の振り返りや職員間のミーティング等における対話を通じて、保育の実践を捉え直す必要がある。
- ・保育の専門職としてさらなる保育の質の向上を目指すことが重要である。教諭・保育教諭・保育士いずれも必要なこと。
- ・「みんなで考える」というチームワークが質の向上にもつながる。







## 乳幼児教育ビジョン推進事業 マネジメント研修

### 保育者による「虐待」の定義

#### 1 身体的虐待

保育所等に通う子どもの身体に外傷が生じ、または生じる恐れのある暴行を加えること

#### 2 性的虐待

保育所等に通う子どもにわいせつな行為をすること、または、保育所等に通う子どもにわいせつな行為をさせること

#### 3 ネグレクト

保育所等に通う子どもの心身の正常な発達を妨げるような著しい減食、または長時間の放置、当該保育所等に通う他の子どもによる行為の放置、その他の保育所等の職員として、業務を著しく怠ること

#### 4 心理的虐待

保育所等に通う子どもに対する著しい暴言または著しく拒絶的な対応その他の保育所等に通う子どもに著しい心理的外傷を与えること

### ◎「子ども主体の保育」にシフトしよう!!

- ・「子ども主体の保育」になっていますか？
- ・子どもの声を聞いて保育していますか？
- ・先生がやりたい保育、やらせたい保育になっていませんか？

◎結局は、保育内容に問題がある。「子ども主体の保育」をしていれば、不適切になりようがない。

### 5 「子ども主体の保育」に必要なのは「子どもの権利」から保育を考えること

◎本当の子ども主体の保育とは～子どもの声を聞く～

- ・やらせるではない。
- ・放任でもない。
- ・放置でもない。
- ・子どもの「やりたくない!」というのも主体性。そこにも向き合う。

#### ・強制・矯正ではなく「共生」「共感」

・子ども主体の保育は、放置放任の保育ではない。本来、子ども主体の保育は安全である。

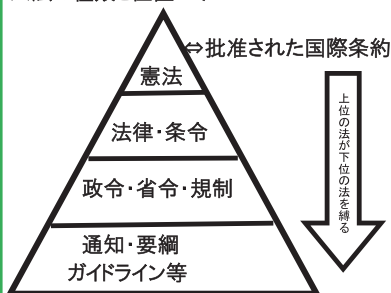
◎保育の中で、「私は子どもの権利を守っているかな?」と考える。

### 「国連子どもの権利条約」

#### 4つの一般原則

- 1 生命、生存及び、発達に対する権利
- 2 子どもの最善の利益(子どもにとっては最も良いこと)
- 3 子どもの意見の尊重(意見を表明し、参加できること)
- 4 差別の禁止(差別のないこと)

#### ※法の種類と位置づけ



### ◎子どもの権利条約は憲法と同等の力を持つもの

#### ※寺町弁護士による解説

◎赤ちゃんの泣き声は言葉であり、赤ちゃんの「意思表示」でもある。

◎子どもを「育てる」「育てられる」という言葉は、「支援する」「支援される」という、一方向になりがちである。

◎「大人と子どもは対等」であるが、現実には「対等」ではない。しかし、その時に「子どもの権利」を考えれば、「育てる」「育てられる」というような一方的な関係にならないはずである。

◎必要なのは「Diversity」の考え方。

Diversity = 「みんなちがってみんないい」

(例)

様々な国にルーツを持つ子  
病気や障害がある子  
貧困・虐待など課題のある家庭で育つ子  
LGBTQの子…など。

◎子どもたちには「体の安全」だけでなく、「心の安全」も必要である。

◎「体の安全」は守られても、「心の安全」が守られなければ真の意味での安全とは言えない。

◎心の安全とは、そこにいて居心地よく過ごせる場所である。

◎「予防」まで含めた子どもの安全を考えていこう。広い意味での子どもの安全のためには幼児教育関係者の学びが必要である。

※参考資料「これからの園に求められる危機管理とは～『子どもの権利』を守るという視点から危機管理を考え直す」(ベネッセ『これからの幼児教育』2021)

### 大切な命を守るとは

猪熊先生の講演内容は、現在の園の安全管理や保育の在り方、子どもの人権を見直してみるよい機会になったのではないのでしょうか。

現在していることが本当にこれでよいのか、大切な子どもの命や人権、成長発達を保証できる体制が出来ているのかを、園の職員全員で話し合い確認して共有していくことが大切だと改めて感じました。

各地で起きている乳幼児教育施設**の事故や、不適切な保育は、日々の中で、保育の問題を放置して、見過ごしたゆえの、起こるべくして起こった事故である**という言葉は今一度心にためて保育していきましょう!



## 乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 令和7年1月27日

発行者 舞鶴市乳幼児教育センター

## 乳児保育・教育研修を実施しました

今年度も、3回連続研修として乳児保育・教育研修を実施しました。第1回目には、講義やグループワークを通じて、「保育所保育指針」や「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（以下、指針・要領）に基づき、「養護」と「教育」の考え方や各年齢の発達、領域におけるねらいと内容、保育者の関わりなどを学びました。第2回目には、うみべのもり保育所0、1、2歳児クラスの保育参観を通じて、子どもの姿を記録し、学びの姿を見取り、語り合う研修を行いました。京都府幼児教育センター大橋美智子アドバイザーには、子どもの学びの姿だけでなく、環境や保育者の関わりなどの意図なども詳しくお話いただきました。第3回目には、昨年度に引き続き、同センター伴亜紀アドバイザーから「離乳食」についてお話いただきました。

主に、第2回目の保育参観での学びについて報告します。

## 参加園

うみべのもり保育所	中保育所
朝来幼稚園	永福こども園
岡田こども園	さくらこども園
シオン幼稚園	昭光保育園
橘幼稚園	タンポポこども園
なかすじこども園	ルンビニこども園
舞鶴こども園	舞鶴聖母幼稚園
	(五十音順)

	日 時	場 所	内 容
1	7月18日(木)15:00～17:00	乳幼児教育センター	講義「乳児保育・教育」 グループワーク
2	8月9日(金)9:30～12:00	うみべのもり保育所	保育参観 グループワーク 指導・助言
3	9月17日(火)15:00～17:00	乳幼児教育センター	講義「離乳食」

## 保育参観 うみべのもり保育所

子どもの姿、遊びの姿は、学びの姿でもあります。子どもが遊びを通じて様々なことを学んでいることは、指針・要領にも書かれています。私たちは、専門職として一人一人の遊びの姿、つまり、学びの姿を見取ることが重要です。

また、子どもの姿を捉えることは、子ども理解につながり、目に見えない子どもの内面を捉えることにもなります。内面とは、何かができるようになるというよりも、子どもの「やってみたい」「たのしい」という思いや意欲、好奇心という「育みたい資質・能力」のひとつ「学びに向かう力、人間性等」でもあります。

保育参観を通じて、楽しそうにしている、おもしろそうなことをしている、触れて、感じている子どもの姿を見取ってもらい、グループワークで語り合いました。

子どもの姿を学びの姿として捉える視点として、次のことを意識して参観しました。

- ◎安心して好きな遊びを楽しんでいる姿
- ◎ものに触れて、感じている姿…どのように体、足、手、指で触れているのか、感じているのか
- ◎何かをじっと見ている、聞いている姿
- ◎いろいろな方向から見たり、触れたりしている姿
- ◎体や手、足を動している姿
- ◎何度も繰り返している姿
- ◎保育者に視線や指差しや身振り、言葉で思いを伝えようとする姿
- ◎保育者に視線を送り、応答、共感してもらっている姿

参加の皆さんが見取ってくれた助言を紹介します。

## 子どもの姿

## 保育者の関わりや環境で大切なこと

## 学び

と大橋先生の指導・

## 0歳児

保育者との信頼関係を基盤に安心できる場所で、人やものへの興味や関心をもち、触れたり、感じたりして遊ぶ中で、**興味・関心、意欲や好奇心**といった学びの姿が見られます。

## 【大橋先生コメント】

- ◎0歳は何もできないのではない。
- ◎0歳の遊びはシンプルであることが大切である。
- ◎実際に触って、道具を知り、ものを知っていく。ものがおもしろいので、そのもので遊ぶ。そのおもしろさに出会えるような環境づくりが必要である。
- ◎子どものやりたいことが分かっている、待ってくれる保育者の存在が大切である。
- ◎保育者に抱っこしてもらいプールに入れてもらったり、出してもらったりするのではなく、自分の意思で出入りすることも大切である。

## 保育者に視線や身振り、言葉で思いを伝えようとしている姿

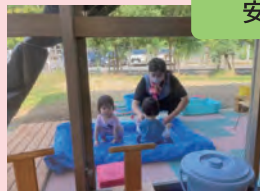
容器から繰り返し水を出す。水がなくなり、保育者に容器を振ってアピール。でも、気付いてもらえず、鳥を見つけて「あっ」と声を出す。そこで、気付いてもらって容器も渡していた。

## 見て、触れている姿

寒天を見て、手を伸ばす。子どもの動きを待ってから、保育者が「いる？」と尋ねる。

## 保育者との信頼関係

## 安心できる場所



## 興味・関心

## 意欲





1歳児

水、砂、色水、氷などの豊かな素材に手や足、全身で触れたり、感じたりして楽しむために、同じ水でも色がついていたり、シャワーになっていたりと、凍らせていたりして工夫することで、さらに、ものへの興味や関心が深まり、不思議に感じたり、繰り返し試したりして遊ぶようになります。様々なものへの関心が広がり、そして、**感覚の働きが豊かになり、感じたことを表現**しようとする学びの姿が見られます。

【大橋先生コメント】

◎0、1、2歳児は、「一人一人」が大事な時期であるが、バラバラな訳ではない。1歳児は友達の存在が大きく、何だろうと興味を示したり、友達のいるところに寄って行ったりする。人とのつながりの中で生活している。「仲良くしなさい」と大人が言うのではなく、友達がそばにいる環境が大事である。そこで遊んでいる子が楽しいと思える遊びが保障されていることで、その遊びを隣で見ておもしろいと感じることができる。

◎海の砂を使った砂場は、砂がサラサラしており、ドロドロするのが嫌な子も遊びやすいのではないかと。苦手な子が遊べないのはなぜだろう…と解決の糸口を探すことが大事である。

◎（支援の子）やりたいことや好きなことがあれば集中して遊ぶことができる。この子が楽しいことは何かを探っていくことから、課題をクリアしていくことが大事である。課題があるからダメなのではなく、解決の糸口を見つけることは、保育の醍醐味である。

◎1歳児は、道具を使って遊びたいので、いろいろと試せる環境は大事である。

◎氷のタワーは、容器が透明なので、上からだけでなく、横からも氷の状態が見られるのがよかった。

◎夏の遊び＝プールと思いがちだが、子どもは、水のあるところで遊びたいと思っていて、どこがおもしろいかを探して選択している。



豊かな素材



触れている 感じている姿



氷に触る、手をグーパーと握ったり広げたりしている。「つめたい」と言葉にはしないが、冷たさを身振りで表現している。

豊かな感覚

じっと見ている 何度も繰り返す姿

水を入れると水車が回る玩具のところで、繰り返し、ペットボトルに水を入れては流し、水車が回っているのを見ている。手でも回してみる。

水車をじっと見ている。保育者と一緒に水を入れる。別の友達が来て、砂を入れ始めると詰まって出なくなる。「なんで？」の表情…繰り返し水を入れる。



応答的な関わり

好奇心

ものへの関心

水や寒天に色をつけて素材を準備することで、形や色を見て、触って感じて楽しんでいきます。そして、道具を使うようになり、つぶしたり、混ぜたりして試すことを楽しんだり、ジュースなどに見立てたりして遊ぶようになります。色や形、感触の**違いに気付いたり、比べたり、試したりする**学びの姿が見られます。

【大橋先生コメント】

◎2歳児はまだ基地が必要である。真ん中の水遊びのコーナーが基地となっている。テーブルのところが拠点となり、遊びが広がるうえに、友達の遊びが見える。それぞれの遊びが別々の場所では気付くことが難しいが、目に見えるところで、比べられることが大事である。

◎2歳児は物を比べることができ、違いが分かるので、今回の、「氷と寒天」のように、似て非なる素材を用意するのがよい。遊びながら違いに気付いていく。

◎同じ氷と色水でも、一人一人遊び方は違う。一斉保育がダメな訳ではなく、遊びの入り口はいろいろあるとよい、ということである。入口は様々でも、水はおもしろい、氷は解けるなどの知識を身に付けていくというゴールは一つである。入口が一つだと、氷が苦手な子は参加しないだろう。

◎道具がたくさんあり過ぎると、何の遊びかが分からなくなってしまう。例えば、水をすくうものなども、いろいろな種類があることが大事だが、厳選して置くことも必要である。

◎次に使う人が使いやすいように片づける、ということも大事にしたい。

◎一般的には、「プールに入りますよ」などと一斉に指示をすることが多いが、遊びたいタイミングは一人一人違うので、子どものタイミングで遊び始めた時に、保育者がどう動くかが大事になる。

◎水着に着替えたが、ずっと部屋で遊んでいた子もいた。水遊びをしなくてはいけいない訳ではないので、明日すればよい。

◎オーガンジーのマントをつけて、スーパーマンのように走りまわっていた。オーガンジーはスピード感を感じるのに合った素材でもある。また、エプロンや衣装など、子どもがなりたいたいものに変身できる素材でもある。



好きな遊びの環境



比べる



自己発揮



何度も繰り返す姿

樋にペットボトルに入れた水を流して、寒天を流そうとするが、うまくいかない。斜めにしたり、上から水を流したり、いろいろと試す。水を貯めてから角度をつけて流す方法に気付く。



気付く

試す

安心して好きな遊びを楽しんでいる姿

好きな色の寒天を集め、水鉄砲を寒天の中に入れて吸い上げようとするが上手くいかない。手で入れて、水鉄砲から「ブニュー」と出ると嬉しそうな笑顔に。



## 乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 令和7年2月15日

発行者 舞鶴市乳幼児教育センター

昨年度より、認定こども園となられた橘幼稚園において、公開保育を行いました。

園内には年齢発達や子どもの興味・関心に応じた遊びの場があり、クラスの垣根を越えて行き来したりしながら、子ども達それぞれが、自分のやりたいことを見つけて楽しむ姿が見られました。

公開保育終了後は、和洋女子大学 田島大輔先生より指導・助言をいただき、乳幼児期の保育・教育において大切にしたいことなどを参加者の皆さんと共有し学びを深めることができました。

【日 程】:令和6年10月31日(木)

【場 所】:橘幼稚園

【公開保育】:9:30～12:30

【指導・助言】:田島大輔先生(和洋女子大学)

## 参加園

うみべのもり保育所

朝来幼稚園

タンポポこども園

池内幼稚園

志楽幼稚園

舞鶴聖母幼稚園

中保育所

シオン幼稚園

ルンビニこども園

倉梯幼稚園

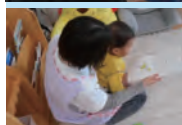
中舞鶴幼稚園

公開後のグループワークでは、参加者それぞれに記録していただいた子どもの姿(子どもがどのようにものや保育者、友達と関わっているか、しぐさや視線、行動、言葉から何に触れているか、何を感しているか、何を楽しんでいるか)…などについてグループの中で共有しました。

グループワークの中では、“こんな風にするとさらによいかも说不定ですね”…などと環境や保育者の関わりなどについての工夫やアイデアなどについても意見交換をしておられるグループもあり、充実した話合いの時間だったと感じます。

当日は、話合いの内容を報告していただくことができませんでしたので、こちらで紹介させていただきます。

## 子どもの姿 ～グループワークより～



## 【0, 1, 2歳児】

○ままごと遊びの中に保育者も入り遊ぶことで、“自分でしたい”という意欲を表情やしぐさで一生涯に保育者に伝える様子が見られた。

○保育者が「○○ちゃんがしているね」などと言葉がけすることで、友達にも関心を向けている様子が見られた。

○ままごとコーナーでは、保育者がマジックテープの付いている丸いケーキを切っているのをじっと見ていた子が、その後自分も同じように切っていた。集中して最後まで切り終わると、嬉しそうに保育者の顔を見ていた。その姿を見て保育者も「切れたね!」と言葉をかけており、応答的な関わりが見られた。

○0, 1歳児はテラスもうまく空間が作ってあったり、室内のコーナーもそれぞれの場所で楽しめるように環境が整えられており、身体を動かしたり、ゆったり過ごしたりと、とても楽しい空間になっていた。子ども達は自分の興味のあるところを選んで行き来して遊んでいた。

○一人の子が保育者と一対一でコップの中に入れて遊んでいると、他の子もそれを見て同じようにしたり、何人かでコップを持って“かんぱーい”と言って遊び始めた。自然と子どもが集まってくる姿が見られた。

○救急車に乗った子が寝ている子に「いたい?」と聞いて薬を塗る真似をしていた。その姿を見て保育者が、「助けてあげて!」と、うまく遊びに入り込むことで子ども達は見立て遊びやなりきることを楽しんでいた。

○保育者が、それぞれの遊びの子どもたちのところに寄り添われ、言葉を受け止めたり、思いを代弁したり、一緒に遊んだり膝で絵本を見せておられたりした。職員間で連携し、適所におられるなど感じた。

○2歳児のままごとは充実していてこまかく素材が分けてあった。皿を持って「たまご」「イカ」といながらスーパーで買い物するようにしていた。リアルであることは大事だった。

## 【田島先生より】

◎発達や子どもの興味・関心に応じた遊びの環境が考えられていた。子ども達も穏やかに遊んでいるように見えた。

◎玩具などの量や、物の一つずつの意味については、吟味することが大事だと考える。たとえば、ままごと遊びの際につけるバンダナを、子どもが自分で頭につけられるようにゴムをつけるのか?それとも1歳児だから保育者にやってもらうのでよいのか…ということや、環境などについても、写真を撮って「今年は○○だったけれど、次年度はどうする?」ということを考えていくことで、自分達の行っている保育の蓄積がされてくると計画や予測がしやすい。







子どもの姿 ～グループワークより～

【3歳児】

○“△△をつくりたい”“～したい”と自分のやりたいことや思いがあり、「お母さんが好きなやつ」「ここはこれ貼らんとあかん」などと説明していた。  
○保育者が子どもの“～やりたい気持ち”を大事にして関わっていた。「先生と一緒にしようか」などの言葉がけも聞かれた。「どの色にしようか」という保育者の言葉がけに対し、数種類の紙を持ってきて、子どもが考えて選ぶ姿があった。  
○製作遊びのコーナーで猫の耳を作っていた子どもが「小さい」「きついつから入るようにしたい」と言うと、保育者が「こっちにも〇〇があるよ」と提案される姿も見られた。



【田島先生より】 ～環境について～

○製作遊びなどの素材についても、段ボールなのか？画用紙なのか？ガムテープ、セロハンテープでつけるのか？それとも保育者が一定作ってあげるのか？ということも、よく吟味するとよい。年齢によって使いこなせるものも違うので、年齢発達や子どもに経験してほしいことなどと兼ね合わせながら用意することが大切だと考える。  
○折り紙などは、取りやすいように大きさを分けたり、色を分ける、机が散らかっているようであれば、保育者が戻してあげると、スペースが広がってやりやすくなるなど、物を整理すると、子どもが考える余地が生まれる。  
○遊びは一つより二つがよい。例えば、お面作りの近くにごっこ遊びというように、楽しそうに遊んでいる人がいると、外で遊んでいる子もやりたいと入ってくるだろう。こういったことが子どもの姿からの環境づくりになる。



【4歳児】

○ハロウィンの衣装づくりで、マントを作っている子が多かったが、好きな素材を選び、自分なりにいろいろと工夫していた。何日間かの積み上げで遊びが広がっていったのだと感じた。  
○他児のマントにつけていた貝殻が取れたことに気付いた子が「つけてあげるよ」と言って、その子がマントをつけたままでいられるように、自分がつけてあげていた。困っている子にさりげなく声をかけており、友達と関わりながら遊ぶ姿もあった。  
○綿菓子のコーナーで「どうぞ」「どうですか？」など参加者とやり取りをしてくれた。ドングリにビニールの緩衝材を巻きたかったが上手く巻けず、次に果物についている緩衝材を試したがそれも上手く巻けず、最後は折り紙を使って巻き、ペロペロキャンディーを作っていた。何度も経験して、どんな素材を使おうかどんな素材だったら巻けるかなど考えながら作っていた。  
○ジュースやお金を作り、自分のやりたいことで役割を分担し、店員さんとお客さんとのやり取りを楽しんでいた。  
○製作コーナーが部屋の真ん中に設定してありよかった。自然物などのいろいろな素材があり、日ごろから使いたい時に使えるようにされていると感じた。



【5歳児】

○一人の女兒が家でハロウィンバッグを作ってきたことをきっかけに、三人の女兒がバック作りをしていた。作り方を知っている子が一生懸命、手を添えて友達に教えるなどして、協力してバッグを作っていた。完成すると喜んで、保育者に見せたが、キャンディーを入れると落ちてしまったことで底がないことに気付いた。  
○バッグの底を取り付ける際に、保育者がすぐにやり方を提示してしまったが、少し様子を見たり、どうしたら落ちないかな？などと言葉をかけることで、子ども達の気付きがあったかもしれないと思った。



○女兒達の姿を見ていた男児が「作りたい」と言った時に、先程友達に教えてもらっていた女兒が今度は教える側になっていたのがよかった。(ハロウィンバッグのかぼちゃの)口を作る時は、教えていた子がさらに別の子に教えてもらうなど、お互いに教え合う姿が見られた。  
○ものさしは(長さなどを)測るものという捉え方をしてしまいがちだが、バッグの持ち手を作る際に、ものさしを型枠として使っている子がおり、子どもの発想に驚いた。

【田島先生より】

～一人でサメクッキーを作り続けて遊んでいた子について～

○その子にとっての遊びの中に学びはあると思う。一人で遊んでいる姿だけにとらわれず、なぜ一人で遊んでいるのかを考えてみるとよい。数人で遊んでいるからよいのか？一人で遊んでいたらダメ？可哀そうなのか？  
二人で遊んでいる子どもの内にある育ちや学びをどのように保護者に伝えるのが重要であると考え。

主に3, 4, 5歳のグループでは、遊びの場を限らず、好きなところで遊べる環境についても、次のような意見が多く見られました。

○やりたい遊びの場に行ける環境。廊下も開放的で、テラスから園庭に出られるのがよい。  
○園庭から部屋、部屋から園庭のどちらからもお互いの様子が見れるのでよいと感じた。  
○自園では園の構造上の問題もあり、みんなで園庭、みんなで室内という風に遊んでいる。橘幼稚園では、テラスから出入りして伝えたいことや発見したことなどを保育者に伝えたり、場所やクラスを越えて遊ぶ環境がよいと思った。  
○ハロウィンの衣装を着けた子に、そのまま園庭に遊びに行ったら？と提案したが、「帽子がぶらんとあかんから・・・」と言っていた。部屋、テラス、園庭が近いので、どこでも遊べる環境にしておくとしの遊びが外の遊びにもつながっていくのではないかと思った。

## 田島先生 講義

子ども自身が問題を解決しようしたり、その問題に自分で向き合おうとしたりすることに意味がある。保育者は、遊びに上下はないということを意識しておくことが大事である。

◎幼児教育とはどういうものか？  
を考えた時に「遊んでいるだけ」「小さい子どものお世話をするだけ」なのかということを考え直したい。津守 真氏は「子どもの世界は私には理解できないゆえに否定されるのではなく、むしろ理解できないことに意味があることを知る」と述べている。「分からないけれども分かろうとすることに意味を見出す」ことが大事であり、これは世界規模でいわれていることである。



## 「スターティング・ストロング」より

◎経済協力開発機構（OECD）※以下OECD）が示す「スターティング・ストロング」においては、非認知能力への着目、つまり、IQや早期教育よりも自分でやろうとする気持ちを大切にしていってほしいといわれている。日本においても、こども家庭庁が「はじめの100か月の育ちビジョン」を示した。はじめの100か月、つまり、乳幼児期がものすごく大事な時期だといっている。

◎人との関わりや遊びの大切さも「スターティング・ストロング」の中で述べられている。人との関わりについては、他者の存在に気付く力、コントロールする力、粘り強く目標に向かっていく力（これは形があるものに向かっていく場合と形の見えないものに向かっていく場合）がある。

◎また、遊びの大切さに着目していく時に、次の三つの視点が大事だと考える。

- ①自分で選択する。→絶対これをやれと言われたものは遊びではない。
- ②自分で選び、自分でやろうとする。→誰かにやらされてやるのは遊びにはならない。
- ③自分がやってみたいことから始めようとする。

◎学びや育てていく方向性は、私たちが学んできた時代よりも大きく変化しているといわれている。現在、OECDが考えているのは、「進むべき方向を見出し、必要性を強調すること。つまり、自分たちなりに目的を見出していくことが大事だといわれている。自分で目的を生成していける子ども、自分で自分の学びを創発できる子どもが目指されている。

## 遊びに上下はないということ

◎ジョン・デューイは「探究には物事の法則性や理論・科学的な法則性のある科学的探究と、日常に潜む何でもなことを解決しようとする探究がある」と唱えている。私たちは、学びや育ちを測定的な評価として上下で捉えがちではないか。

◎例えば、一人で遊んでいるより、友達と一緒に遊んでいる方がよい遊びをしているように見えたり、何か形になったものができると嬉しい気持ちになったりする。科学的探究をしていると学びと捉えがちになるが、どちらにも意味があるはずである。遊びに上下はなく、どんな遊びにも意味はある。

◎問題を解決しようしたり、その問題に自分で向き合おうとしたりすることに意味があるのだが、私たち大人は成果物や何かが達成されることに目が向いてしまいがちではないか。遊びに上下はないということを意識しておくことが大事である。

## 保育者の態度や気持ちにおいて大事にしたいこと

- ①開かれた心（オープンマインドネス）“聞く耳”をもつ。
- ②成果や何かできたことではなく、子どもが何に興味や関心をもっていたか、どのようなことに夢中になったり、没頭したりしていたかということを大事にする。
- ③レスポンスリビリティ（対象に対応する）つまり、応答的に関わるのが大事である。（ジョセフ・シュワブ（1969）「探究学習」）

◎応答的とはどういうことかを考えた時に、幼稚園教育要領では、『遊びによる指導』という言葉が出てくる。これがレスポンスリビリティに近いのではないかと考える。

◎応答するためには、保育者が一緒に関わって遊ぶなど、子どもがやっていることに共に関わることがとても大事である。

◎『援助・助言・共感・受容・提案』これが『遊びによる指導』であり、応答的な関わりといえる。普段の保育の中でこれらのことを意識することが大事だと考える。

◎幼保連携型認定こども園教育・保育要領の『指導の意義』の中では『園児の行動や発見・努力・工夫・感動などを温かく受け止めて』と書かれている。子どもをよく見たうえで共感したり励ましたりして心を通わせる。このことを『身体行為を通しての応答的関わり』と示されている。「すごいね」という保育者の一言でも『身体行為を通して』つまり、表情や声のトーン、目線や仕草などによって全く違うものになる。

◎『園児の展開する活動に対して必要な助言・指示・承認・共感・励ましなどを行う』このことを対話的関わりという。共感するだけでなく、助言や励ましが大事であり、これらを合わせて行うことが『遊びによる指導』ということではないか。

## 環境について

◎子どもが選べる環境を整えることが大事である。環境がなければ面白さや偶然の気付きは生まれないし、遊びは出てこないだろう。

◎環境を整える際には、子どもが「〇〇したい」と思っていることや、「△△しようとしている」ことを知ろうとしていると環境に落とし込みやすい。子どもの興味・関心と保育者の意図との両方をよく考えて環境を整えていくことが必要だと考える。

◎幼児教育では子どもの興味・関心と保育者の意図のバランスが大事であり、このバランスを保っていくのは難しさもあるが、楽しさでもある。

◎大人は、物事を構造的に考えてしまうが、子どもは、「〇〇を分かるう」と思って関わるのではなく、やってみたいと思って関わっている。自分でやってみることで分かってくる。

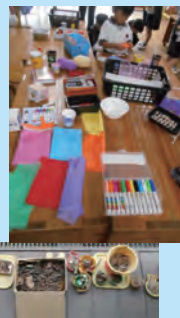
## 評価について

◎評価とは、今日の環境が正しかったか正しくなかったかで判断するのではなく、子どもが何を体験したのか、どのような育ちがあったのかということのポイントにしてほしい。

◎「～できた」というよりも、子どもが「〇〇しようとしている心の動き」や、「△△しようとしている最中の姿」などを評価してほしい。答えが一つではなく、「〇〇もありだし、□□もありだし…」という評価の視点で捉えていくとよい。

## 最後に…

◎子どもを育てていくことを再考する時代になった。小学校でも幼児期の遊びの大切さへの理解が進んできており、社会全体でも子どもが大事だという考えが広がってきている。だからこそ、幼児期の遊びが大事であり、何を大切にしているか、どのようなことが育っているか、ということを伝えていくことが大事だと考える。







## 乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 令和7年1月28日

発行者 舞鶴市乳幼児教育センター

### 「学びを深める 学びをつなぐ」連携を目指し、第3回保幼小連携研修会を実施しました

「学びを深める 学びをつなぐ」保幼小連携を目指し、11月15日に今年度3回目の保幼小連携研修会を実施しました。

今回は、保育所・幼稚園・認定こども園の保育者を対象に、日々保育の中で感じておられる5歳児の遊びの中の学びが、小学校での自覚的な学びへとどのようにつながっていくのか、理解を深めていただくとう、舞鶴市立明倫小学校 1年1組担任小嶋詩乃先生に、生活科「あきとなかよし」の授業公開をお世話になりました。

5歳児は、遊びを展開するプロセスにおいて、

○気付いたりできるようになったりしていくこと(知識・技能の基礎)

○試行錯誤や創意工夫すること(思考力・判断力・表現力等の基礎)

○やってみたいという思いを持ち、粘り強く取り組もうとする力(学びに向かう力、人間性等)

を一体的に育むことを大切にしています。

小学校において、このような幼児期の遊びのプロセスをいかすことのできる教科は、生活科です。

①思いや願いを持つ⇒②活動や体験をする⇒③感じる・考える・気付きを持つ⇒④表現する・行為する・伝え合う・振り返る・共有する⇒①「新たな思いや願い、疑問を持つ⇒②」活動や体験をする…。

生活科では、自分の思いや願い、疑問などを出発点とし、4つのプロセスを繰り返しながら高まっていくことを大事にしています。これは、幼児期に大事にしている試行錯誤のプロセスと同じだといえます。

このプロセスを大事にしながら「あきとなかよし」の単元では、ゴールとして1年生が「秋の自然を取り入れた『たのしいあきのおもちゃランド』を開きたい」という共通の目的(願い)を持ち、そこに向かっていく学習の計画と一緒に考えられました。そして、秋の自然と関わることを通して、

○秋の自然の様子や夏から秋への変化が分ったり、秋の自然物を利用した遊びの面白さに気付いたりすること(知識・技能の習得)

○秋の特徴やそのほかの季節との違いを見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったりすること(思考力・判断力・表現力の育成)

○自分の生活を楽しくしようとしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすること(主体的に学習に取り組む態度の育成)

をねらいに、授業に取り組まれました。

公開授業では、動画で前時の振り返りを紹介したり、ペアでお互いにアイデアをもらい合ったりすることで、子ども達は、具体的なイメージを持ち、「もっとたのしいおもちゃにするぞ」という意欲を高め、それぞれのおもちゃの改良に打ち込む姿が見られました。

また、教師が肯定的な言葉かけをすることで、子ども達は安心して自分の思いを話し、子ども同士をつなぐ言葉を意識することで、子ども達がお互いのことに関心を持っていました。さらに、困っている子どもに寄り添い話を聞くことでその子の考えを明らかにし意欲を引き出される姿も見られ、いわゆる「伴走型」の教師の関わり方や役割の大切さも感じました。

グループワークでは、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに見取った子どもの姿や学びを交流し、「架け橋期に大切にしたいこと」について積極的に話し合っていたで、子どもが自分の思いや考えを相手に言葉で伝える大切ななどを共有することができました。

これからも、架け橋期における「主体的・対話的で深い学び」について共有し、各園・各校での保育・教育において、環境の工夫、学びのある経験、関わり方などを意識していくことが大事だと確認することができました。

#### 参加園

うみべのもり保育所	中保育所
朝来幼稚園	永福こども園
岡田こども園	シオン幼稚園
昭光保育園	相愛こども園
橘幼稚園	タンポポこども園
東山こども園	舞鶴こども園
池内幼稚園	三鶴幼稚園



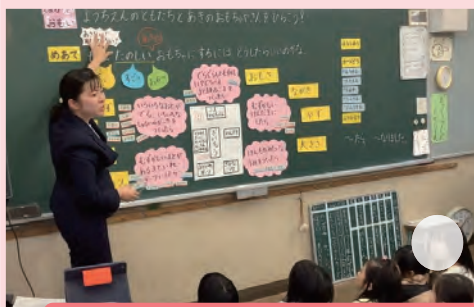
### 第3回保幼小連携研修 授業参観 ～明倫小学校1年1組～ 〈11月15日〉

子どもが「もっとおもしろいおもちゃにしたい」という思いや願いを持ち、環境の充実や具体的なイメージ・見通しを持って行うなどの手立てがたくさんあったからこそ、自ら考え、創意工夫する姿がたくさん見られました！

#### 【導入での子どもの学びの姿】

本時のめあては、「もっとたのしいおもちゃにするには、どうしたらいいのかな。」でした。1年生は、チャイムの鳴る前から教室の前方に集まってきました。

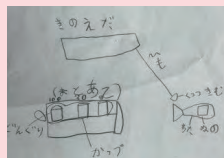
先生は、自分で作ったシンプルなマラカスを提示され、『たのしい』おもちゃって？』と問われました。子どもたちとの対話から、遊んだ時に



「えっ」「すごっ」「おお～」と言ってもらえるおもちゃにしよう、「あきない」「みたことがない」たのしいおもちゃにしよう、子どもの言葉を引き出されました。

友達と一緒に考え、意欲を高め、具体的な見通しを持つ

また、前の時間の振り返りを動画で紹介することで、改良したいことを観点(どんぐりのかず、しゅるい、大きさ、ざいりょう、おもさ、ながさ、かず)ごとに整理し共有する工夫が見られました。



さらに、ペアになり自分のおもちゃを使ってもらいインタビュー形式でアドバイスをもらうことで、さらに具体的な改良のイメージを持つことができました。



#### 【展開での学びの姿】

おもちゃの改良に、やる気満々で取りかかる子ども達。材料も豊富にあり、何度も試したり、素材や数などを変えて以前と比べながら取り組む姿が見られました。

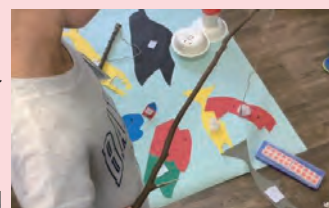
#### 試行錯誤による思考力の育成



## 明倫小学校 公開授業より

## 書き言葉による言語化

「さかなつり」では、オナモミを釣り竿の先につけて、色画用紙で作った魚にフェルトをつけていましたが、釣り上げにくかったので、「よくつれるようにしたい」と綿をつけて、改良しました。

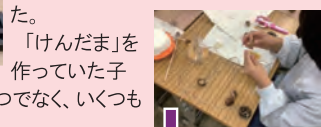


カニの足を串で作っていた子は、危なくないように串の先にドングリに穴をあけてくっつける姿が見られました。

「けんだま」を作っていた子

は、ひもと玉になる木の実を、一つでなく、いくつもつけていました。うまく入るか試している様子を見守る子の姿も見られました。

「まとあて」では、的に入れるカップの数を増やしたり、向きや置き方を考えたりしていました。



「マラカスづくり」では、中に入れるものをいろいろ試し、最後にはドングリの帽子を砕いたものを中に入れ、きれいで繊細な音が出るマラカスを作りました。その音を近くで聞いていた子が、

思わず拍手をして「おおおっ」と歓声をあげ、作った子もにっこり。友達の工夫した「おもしろさ」に気づき、通じ合った瞬間、温かな空気が流れました。

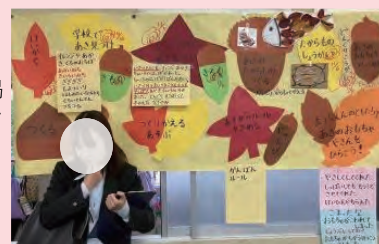


## 【まとめでの学びの姿】

一人一人がそれぞれの活動を振り返り、「～したら、〇〇になった」という書き方を基本にして、もっと楽しいおもちゃにするために、工夫したことや気付いたことをシートに書きました。全体での共有は、次の時間にされました。

## 【環境の工夫】

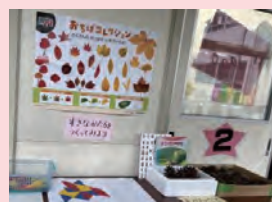
教室の壁には、子ども達の願いや思いをもとに、どんなことがしたいか話し合っただけでなく、どんな考えやどんな気付きがあったのか、1年生が確かめられるように、書き込みもされていました。



教室の中央には、自分達で集めたたくさんの木の実や葉っぱ、枝などの秋のものがいっぱいでした。他にも、木の実に穴をあけるコーナーには、転がらないためのゴムの板と錐が用意されていました。

廊下にも、秋の木の実や

葉などに関わる図鑑や本、木の実の名前などがかかれたポスターが用意されていました。参加者も「あきとなかよし」の世界に、ずっと入っている感覚を持ちました。



## 第3回保幼小連携研修 【参加者の感想より】

○ 秋の自然物を使った遊びを考え、自分達で考えたり相談したりしながら作ったり遊んだりすることを楽しんでいました。自然物を飾りや楽器の中身として使うだけでなく、それぞれの特徴をいかし、他の素材と組み合わせながら作っている姿が印象的でした。設計図を描くことで完成のイメージがつきやすく、友達の意見と合わせながら、新しく工夫したり作り直したりしていたので、よいと感じました。

環境では、子ども達が見通しを持って取り組めるように計画されていたり、たくさんの素材があって子ども達が作り込めると感じました。

園でも環境において、子ども達が自分の作りたいものや表現したいことを存分に発揮できるように準備したいと思います。また、言葉で表現できるように振り返りの場も工夫したいと思いました。

○ 子ども達が友達や先生の声を聞いて「もっとやりたい！」と意欲的に活動しているのがとても素敵だと思いました。

これまでの生活の中で伝えられてきたのだと思うのですが、話を聞く時に相手の方を見たり、「～した方がいいよ」など、否定にならない伝え方をしている子が多いのが印象的です。

今も気を付けていることではありますが、全て保育者が言ったり

やったりしてしまうのではなく、子どもの気付きを大切に、そこから保育を広げていけるように心がけていきたいです。自分の気持ちを言葉で伝える、ということ大切にしたいです。

○ 担任の先生のマラカスから、子ども達に子ども達なりに考えて改良しよう！やってみよう！とする気持ちを盛り上げ、自分達だったら「数を増やしてみる」「種類をかえる」「秋なので葉っぱを増やしてみる」など、様々なアイデアを出し、やってみたいという気持ちを引き出す言葉がけがされていました。友達のおもちゃを使ってみてインタビューをし、言葉で伝え合いをして考え直したり、遊びを創り出そうと工夫したりしていました。次の遊びを改良したり、遊び方を変えたりなど、遊びを創り出す方向につながっていました。わくわくした学びでした。

自然のもの、身近なものから、大きさ、長さ、数、材料、重さを知り、経験したことを言葉で伝え合い、互いの考えの違いを知って、アイデアをもらったりして、考え直したり、折り合いをつけて遊びをつくり出し、発展させ個々が充実感を持ってわくわくした時間を自分なりに過ごせるよう努力したいです。



令和6年度 号外 秋

## 乳幼児教育の質の向上研修ニュース 号外

発行日 令和7年1月28日  
発行者 舞鶴市乳幼児教育センター

### 「学びを深める 学びをつなぐ」連携活動 ～9月から12月までの実践より～

秋に行われた連携活動にも、保幼小接続コーディネーターが、いくつかの連携協力園校に事前の打ち合わせから事後の振り返りまで参加させていただきました。

1学期の連携活動で顔見知りとなり、自園・自校以外の5歳児や1年生と一緒に遊んだり活動したりするんだな、楽しみだなという思いで、参加していた子ども達。この間、日々の遊びの経験・学習による発達・成長もありますが、事前の打ち合わせで架け橋期の子供達に期待する姿を意識した内容や方法を考えていただいたことにより、お互いに自然に関わり、学び合う姿がより多く見られました。また、5歳児も1年生も同じ目的に向け、自分のよさや考えを発揮したり、折り合いをつけたりする姿(協同性)が見られました。

また、回を重ねる度に、自園・自校にとらわれず子ども達に関わっておられる保育者・教師の姿や、子ども達の姿を見て保育者と教師が活動中にもさっと打ち合わせをされる姿を、しばしば見かけました。

充実した連携活動になるよう取り組んでおられた様子を、一部ですが紹介します。

#### 与保呂小学校 やまもも保育園

「自然に囲まれている環境や自然体験を大切にしたい連携活動にしたい」と、夏は川遊びや生き物がしに取り組みされました。



- 1 はじまりのかい
- 2 あきみつけ
- 3 きょだい  
きのみのめいろづくり
- 4 しょうかい
- 5 おわりのかい

一人一人が自分のやりたい遊びをしたり、捕まえた生き物を見合ったりして、自然に関わり合う姿が見られました。

今回は、秋の自然物を使ってチームで自己発揮しながら協働

的に活動ができるようにしたい、工夫したことを紹介し合う場も持ちたいという思いから、大きな段ボールに、枝や葉っぱなどをはりつけて作る「きょだい きのみのめいろ」に取り組みされました。

体育館には、事前に集めた材料や活動しやすさを考えた場の設定などの準備がされていました。

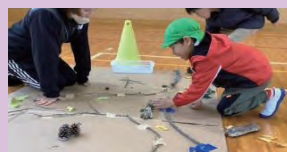
はじまりのかいでは、簡単に流れを伝えられた後、子ども達はチームでの顔合わせをして、さっそく、チームで体育館の周りを探索し、園で見たことのない大きな葉っぱを見つけ雨傘のようにさしたり、きれいなイチゴの葉っぱや木の実を集めたりしていました。



戻ってきたチームからどの段ボールにするか相談し、スタートとゴールを決め、それぞれに取り組みしました。

途中で手が止まって考えている子には、保育者や教師がそばに行き、「どうしたいん」と話かけ

ると、自分の思いを話し始めました。さらに「何があるかな」という問いかけをきっかけにその子が動き出しました。このような保育者・教師の関わり方は、まさに伴走者だと感じました。



紹介し合う場面では、子どもの発言に対して、「どんなところを協力したの?」「どう、転がった?」「どんなん作ったん? すてきな作ってたやん」

などと言葉をかけられ、詳しく話を引き出されました。



また、子どもの「いろんなところを工夫してつくれたのが、楽しかったです」という発言には、「どこを工夫したん?じゃあ、ちょっと持ってくる?」と返され、実際に迷路を囲んで、話を聞くことになりました。再度、工夫をたずねられると、

子「このはっぱのえきのところをくふうしました」  
保育者「すごいね、これ。どうやって立てたん?」  
子「ガムテープをいっぱいつけて、くっつけました」  
保育者「このチーム、他にも工夫があるんだって」  
子「ここをすべりたいみたいになりました」・・・  
周りの子も話に加わり、「おれもさあ、これ、すごいとおもう・・・」「ゴールまでやってみて」と話が盛りあがりました。  
そのチームの4人が台を持って木の実を転がし声をかけ合います。見ている子も「おお、おお、おお、・・・あああああ・・・と一緒に楽しむ姿が見られました。

連携活動で自分の言葉で工夫を話したり、自然に友達や先生に話しかけたり、会話をしたりする姿から、園でも学校でも、日頃から言葉での伝え合いを大切に取り組まれていると感じました。

5歳児の続きをしたいという思いから、子ども達が選んだ迷路を1つ、やまもも保育園へ持ち帰られました。

#### グッドポイント! 「試行錯誤する」「工夫する」「言葉で伝え合う」

自然や自然体験をいかし、チームで相談しつつも、自分のやりたい思いを大切に迷路づくりに取り組む姿、コースを変えたり、転がし方や転がすものを変えたりするなどうまくころるように試行錯誤する姿、教え合って自然に関わる姿、実際に迷路を動かしながら、自分の言葉で工夫を伝えたり、聞いたりする姿が見られました。そういった姿を引き出す自然物や段ボールなど材料の準備や場所の設定、子どもの思いを引き出す先生達からの言葉がけが見られました。



## 三笠小学校 橘幼稚園

橘幼稚園の5歳児は、製作が大好き。

「今も、トイレトペーパーの芯を壁につないではってコースにして、ドングリを転がして遊んでいます。最後のドングリを受けるところも工夫して作っています」と打ち合わせで、話題になりました。

そこで、学校の階段を利用した「長い長い木の実ころがし」をグループで作ることを通して、コースやゴールを工夫して考えたり、考えを伝え合ったり、協力したりする姿を期待して取り組もうと、次のように相談されました。

（その日に向けて）

○秋遊びとして、グループで木の実や葉っぱなどを一緒に集めたり、遊んだりすることからはじめ、その日の気付きの聞き合いの中で、園でしているドングリ転がしに話題をつなげる。

○どんなコースにしたいか、何が必要かななどを、簡単に相談し、当日までに、園・校それぞれに準備をして集まる。

（当日）

○はじめのかいでは、安全面で気を付けることに絞って伝え、他のグループを見に行ってもよい時間などは1年生が事前に確認しておき、活動時間をたづねる。

○紹介タイムを設け、紹介したい工夫をグループで相談してタブレットで写し、他のグループに伝える。

秋遊びの日は、あいにくの天気で、体育館での遊びになりましたが、園で遊んでいる木の実ころがしの話題を上手引き出されました。

当日は、それぞれで用意したものを持ってこられたり、簡単な計画をグループで話し合って見通しを持ったりして、意欲が高まっていた子ども達。どの階段にするのかを決めたら、どの子どもさつと取りかかりはじめました。



芯を半分に切る役とガムテープで付ける役に分かれて取り組むグループ、芯を切らずにどんどんガムテープで付けるチーム、コースを作ってから手すりにつけるグループ、芯と紙パックを組み合わせてコースを作るグループと、やり方もそれぞれです。

- 1 はじめのかい
- 2 きのみころがしづくり
- 3 くふうしたところのしょうかい
- 4 おわりのかい



どのグループでも、一人ではりにくいところは、自然に手伝ってはっていき姿が見られました。

用意していた芯などが足りなくなると、段ボールを三



角形にしたり、波段ボールを切って丸めたりして、ある材料をうまく使いながら、長い長いコースを作ったグループもありました。

コースができると、何度もドングリなどを転がし、コースから飛び出さないでゴールに行けるように、はり方を変えたり、芯の重ね方

を変えたりしながら、思うように転がるよう、取り組んでいました。



「ドングリがとりだせるように、てがはいるようにしよう」

「あなからドングリがだせるようにしよう」…とゴールも工夫しています。

工夫したところの紹介では、たくさんのグループが紹介したいと張り切り、5歳児も1年生も自信を持って話す姿が見られました。

全てのグループの紹介はできませんでしたが、最後に、先生達が皆に紹介したいグループを選ばれ、共有したい工夫を、意図的に取り上げられました。日頃から、よさや工夫など子どもの学びを見出す力が大事だと感じました。



また、園校の先生方が親しくなれ、事前・事後の打ち合わせだけでなく、連携活動当日もさつと打ち合わせをされたり、工夫している子どもの姿を伝え合ったり



されており、保育者・教師の連携の大切さも改めて感じました。

1年生の「つづきがやりたい」「つつやはこをもってきて、きょうりよくしてくれたじょうきゅうせいともあそびたい」という思いから、休み時間に工夫したり遊んだりできるように、しばらく手すりにそのまま木の実ころがしのレーンを置いておくことにされました。そのあと、コースの改良をしながら、たづね遊びを楽しんだそうです。

### グッドポイント！「考えを伝え合う」「自己発揮する」「繰り返し試す」「協同性」

やりたい意欲を高め、子ども達に任せることで、子ども達は、「おもしろいきのみころがしをつくりたい」と、それぞれに考えたことに積極的に取り組んでいました。何度も試しながら作ることを通して、グループで考えを出し合い、協力すること、また、工夫したところを伝えることを大切にされた連携活動でした。



令和6年度 第7号

## 乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 令和7年2月15日

発行者 舞鶴市乳幼児教育センター

11月26日(火)タンポポこども園の公開保育を実施しました。

タンポポこども園において、公開保育を行いました。園長先生からのご挨拶では「職員の入れ替わりもあり、保育も模索している中で、公開保育を受けることに迷いはありました。しかし子どもを主体とした保育に向けて、副園長を中心に職員が園内研修をしたり、行事を見直したり、環境を整えたりと前向きに捉えてくれ、子どもたちの安心できる居場所を作ろうと、頑張ってくれ、今日を迎えることが出来ました。」と公開保育のためではなく、それをきっかけにして毎日の生活や保育を職員一丸で見直そうと努力されてきた思いが感じられました。

今回は常に世界的な視野で、乳幼児教育について保育者に愛情深く大切なことをご教示くださる、神戸大学 大学院 教授の北野幸子先生にご指導いただき、明日からの保育への意欲とヒントをいただきました。

【日程】 令和6年11月26日(火)9:30～12:45

【場所】 タンポポこども園

【講師】 神戸大学大学院 教授 北野幸子先生

【内容】 保育参観、グループワーク、カンファレンス

### 参加園

八雲保育園 うみべのもり保育所  
中保育所

朝来幼稚園 永福こども園  
岡田こども園 さくらこども園  
シオン幼稚園 昭光保育園  
相愛こども園 平こども園  
橘幼稚園 東山こども園  
ルンビニこども園 舞鶴こども園

倉梯幼稚園 中舞鶴幼稚園



0・1歳児保育の様子

何度もじっくり試す

1歳児は見立てたり、やり取りしたり...

先生と一緒に！安心の空間で喃語でいっぱいおしゃべりの0歳児

それぞれのやりたいことが緩やかにエリアわけされており、0・1歳児が保育者に優しく見守られて、自分のやりたいことに黙々と取り組んだり、何度も繰り返したり、保育者や友達と関わって遊ぶ姿が印象的でした。

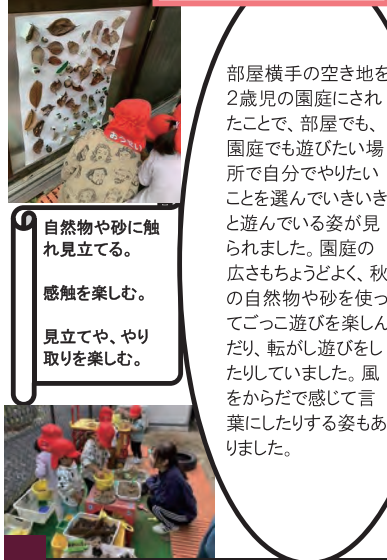
### 【0・1歳児】

担任の先生より※公開後のカンファレンス

言葉がまだまだ思うように言えないことで、噛みつき、押す、などの姿もありますが、子どもの姿から何度も環境を見直すことで、子どもが選択して、遊べるよう試行錯誤してきました。子どもの興味のあることを、また子どもに寄り添った保育をすることで、子どもの遊びの姿も変わり、その大切さを感じました。からだを動かすことも大好きなので、ホールでは坂道トンネルなどを設定しています。保育者と一緒に友達も意識しながら楽しくからだを動かしています。それぞれの遊びの場に保育者が入ってやり取りの楽しさを感じるように関わっています。途中入所児の対応等今後も安心して過ごせるように関わりたいです。

上ったり下ったり、ぶら下がったり、くぐったり、はいはいしたりからだをいっぱい動かして、全身で喜びを表現...

2歳児保育の様子



自然物や砂に触れ見立てる。

感触を楽しむ。

見立てや、やり取りを楽しむ。

部屋横手の空き地を2歳児の園庭にされたことで、部屋でも、園庭でも遊びたい場所で自分でやりたいことを選んでいきいきと遊んでいる姿が見られました。園庭の広さもちょうどよく、秋の自然物や砂を使ってごっこ遊びを楽しんだり、転がし遊びをしたりしていました。風をからだで感じて言葉にしたりする姿もありました。

「いらっしやいませ～」なりきってお店屋さん。

「ひらひら～」とブリキキュアごっこ！

友達と生活体験をごっこの中で再現

### 【2歳児】

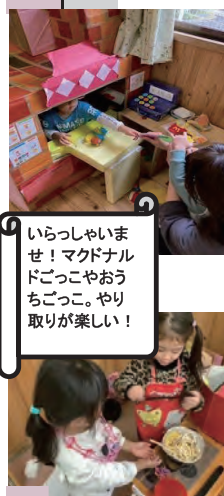
担任の先生より※公開後のカンファレンス

春には部屋の横手の園庭はなく、園庭に行くときはみんなで一斉に前の園庭に出ていました。しかし横手に小さなスペースがあり、そこを2歳児の園庭として整えるなど、室内も含めリニューアルしてきました。

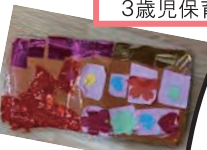
また大人の声かけが多かったことで、子どもたちの声をよく聞くことを共有し気をつけることで、子ども自らが取り組むことが増えてきました。部屋でも園庭でも自分で選んで遊ぶことで、好きな遊びに遊び込めたり、子ども同士のやり取りが増えて、「かして」「わけたげる」などの言葉が出てきたりもしました。環境を整えることで、なりきる等、イメージをもって遊ぶ姿も増えました。そこでほしいものが出てきて、作ることを楽しむ姿も見られます。



## 3歳児保育の様子



いらっしやいませ！マクドナルドごっこやおうちごっこ。やり取りが楽しい！



ブロックと色画用紙など異種素材を合わせたもの等の工夫がいっぱいの製作物！



3歳児らしく、ごっこ遊び真っ盛りで、マクドナルド屋さんごっこでは、帽子をかぶって「いらっしやいませ！ハッピーセットいかがですか」の声が聞かれたり、ままごこでは赤ちゃんを寝させたり、お料理を作ったりしていました。ショーごっこも楽しそうでした。廊下では作ったブロックの電車を4歳児と関わりながら道路つくりを楽しんだりしていました。製作もイメージ豊かで素敵でした。



お客さんに見てもらってうれしいショーごっこ♪

廊下ではブロックの車が走る道路づくり

## 【3歳児】

担任の先生より※公開後のカンファレンス

支援の必要な子どものために作った家を廊下から室内に移動したことでお店やさんごっこのようなやり取りがはじまりました。メニュー表を用意することで、「ハッピーセットやさんしたい！」と帽子やボテを作ってさらにお店ごっこが盛んになってきました。室内でのブロック遊びで、道路や

線路を用意すると、製作が広がって、廊下を使って遊ぶようになり4歳児との関わりにもつながりました。課題としては主に男児が絵を描くことや製作が苦手なので、描けるようになってほしいと思っています。

## 4歳児保育の様子



4歳児らしいこだわりのおしゃれグッズの製作



こだわりの衣装で、自信満々レッツショータイム！♪

4歳児らしくこだわって様々な用意された素材を選び、自分の作りたいもののイメージに近づけようと集中して製作する姿が見られました。ステージでは歌詞をしっかりと覚え自信満々で楽しそうに歌い踊る姿もありました。廊下では男の子を中心にブロックや紙で作った車を走らせるために友達とやり取りしながら遊ぶ様子がありました。振り返りでは、子どもが楽しかった思いや、自分なりの考えを伝えたいという気持ちにあふれた時間になっていました。



皆言いたくてしかたない！ふじふじタイム

明日はどこが進化するかお楽しみ～！

## 【4歳児】

担任の先生より※公開後のカンファレンス

製作が大好きな子どもたちですが、作ったらおしまいだったり、作りかけがそのままだったりする姿がありました。作ったものを大事に飾ることをきっかけに、さらに生き物や乗り物を作るようになり、そこから街づくりに発展しました。女の子はおしゃれごっこでいろいろな物を作っていました。ハロウィンでの衣装づくりをきっかけに鏡を置くポーズをとったりしてステージごっこに発展しました。振り返りでは保育者がたくさん話してしまい、子どもがあまり話せない状態でしたが、センターの方に「もう少し子どもが話すのを待ってやったらどうか」とアドバイスをもらい、気を付けるようにすると子どもってこんなに話せるんだと痛感しています。さらに振り返りのポイントについて学びたいです。

## 5歳児保育の様子



すべて手作りで楽しむ病院ごっこ！赤ちゃんを抱っこして待つお母さん



リアルを追求！トイレには子ども用便座。振り返りタイムで質問続出！



グループごとに遊びを紹介して共有の振り返り

ラキューの製作から始まったごっこ遊びがどんどん進化していき、街づくりに発展している様子が見られました。友達と相談したり、工夫を伝えあったり、保育者に支えてもらいながら、集中して遊ぶ姿がありました。病院ごっこでは待合室と診察室を分けたり、赤ちゃんを抱っこしてお母さんになって待ったり、トイレには子ども用の補助便座を作り、アンパンマンの絵柄も付けるなどより本物に近づけようとしていました。振り返りでは友達の遊びに興味を示し、質問したり共感や友達を認める言葉もたくさん出ていました。



発展してきた街づくり、協働的な姿



相談中

## 【5歳児】※公開後のカンファレンス

担任の先生より

4月はまだ個々の遊びが多く、友達と一緒にがなかなか深まらなかったのですが、ラキューの製作で恐竜を作ったことで、ジュラシックワールドの世界ごっこになり、関わりが増えていきました。さらに夏祭りや、遊びごとに集まって、アイデアや自分の思いを伝えあう中で、少しずつ、それぞれが目的をもって遊ぶようになって街づくりに広がっていきました。遊ぶ前に今日は何をするか相談する姿も見られるようになってきました。保育者の援助としてどこまで援助すればよいのか、お互いを褒めたり認めあったりするような話し合いになるためにどのように振り返りの時間を設けたらよいのかアドバイスがいただきたいです。



【北野先生の指導・助言】

◎自分の予測以外のことをを見つけることを専門職として楽しんでほしい

◎子どもは一番の評価者である

日本で最初に市を挙げて、往還型の研修をやり始めたのは舞鶴市で、研修のやり方を参考にして

いる市もあり、全国に広がりました。  
舞鶴市でスタートした研修がこうして長く続いていることに底力を感じます。公開保育は、人に見られるということで、緊張もあるだろうけど、引き受けて下さり、ありがとうございます。公開保育をされることに誇りを持っていただきたいと思います。園長先生のお言葉に、副園長に任せているという話がありましたが、副園長先生はクラスのことをよく知っておられました。子どものことも、クラスの良いところも、悩みも。一人一人の子どもは全員違う、昨日の私は今日とは違う、興味・関心は移り、友達の影響も受けて成長し大きくなっていきます。

そんな中、先生たちは一つ一つのことに子ども目線で、もっと楽しく、もっと使いやすく、もっと子どもが思いを出すためにはどうしたら良いのかという思いをもって保育されてきたことが今日の公開のいろんな場面で感じました。また、一人一人の先生を園長先生が大切にしておられる。そのことが子どもたちのためのたくさんの工夫につながっているなと思いました。園内でドキュメンテーション研修も行われていると聞きました。何をしたかという活動報告だけでなく、子どもの姿から、興味関心、思いや育ち、学びの部分を書こうとされていること分かりました。とてもうれしいことです。タンポポこども園さんに心から感謝申し上げます。



グループワーク



北野先生から各年齢へのコメント

【0・1歳】

◎0・1歳のクラスでは、五感を意識しているか、安心・安定の場所になっているか、動線はどうかといったことをまず見ることにしている。  
◎部屋全体が温かい、居心地のよいほっとできる場所であった。0歳児は安心して喃語をしゃべり、受け止めてもらっていた。

◎手を伸ばしたら、取りやすい、見やすい、遊びやすい環境構成が大切。大人が遊ばせるのではなく、子どもが自分で選んで遊ぶ環境になっていた。先生たちもみんな笑顔があつてよかった。この場所が、安心安定の場で、自分たちの働き甲斐があり、疲れを吹き飛ばす場であることがわかる。

◎コーナーの設定では手作りおもちゃが多く、この子はこんな風にして遊ぶからこんな風にしてみようという意図があつた。

◎ホールではゆらゆらと揺れたり、トンネルをくぐったり、坂を下ったり、鉄棒にぶら下がったり、ができる遊具が設定してあり、子どもたちは、その場でジャンプしたり、笑顔だったり、身体全体で「楽しい！」を表現していた。

◎子どもが一番の評価者である。また一緒に楽しみ優しく言葉をかける先生方もまた大事な環境である。

【2歳児】

◎子どもが自分で選べる⇒夢中になって遊ぶ⇒そのことで意欲が育つ。大人が声をかけなくても、自分で向かうということがとても大切。

◎部屋に面した自分たちの庭がちょうどいいサイズで、自然物と砂でとてもよく遊んでいた。

◎タイヤにシートをかぶせて小さな砂場を作っていた。「よその公開保育に行ってきた真似しました」と話されていた。地域の中でいいことを共有することはとても素晴らしいと思う。

◎風が吹いて、葉っぱが飛びそうになった時、「どうする？」と言われたら、子どもが風に向かって「やめて」と言っていた。2歳児ならではのアニミズム、ファンタジーの世界を保育者も一緒に楽しんでいた。

◎先生たちの言葉がけに指示語や命令語でなく、誘い語や共感の言葉がよく聞かれた。

◎子どもの言葉を肯定して、「いいよ何言ってもいいんだよ」という先生たちの気持ちの子どもたちに伝わっている。発達の特徴を考えながらパラレルトークを意識して、仲立ちを積み重ねていくことを大切にしてほしい。

※パラレルトーク⇒子どもの行動や気持ちを平行的に言語化すること。

【3歳児】

◎3歳はごっこ遊びの宝庫で、ファンタジーの世界のごっこ遊びも出てくる。なりきって遊ぶことが楽しい様子が見られ、先生は予測していないことを待って、子どもから何が出てくるのかなと思ひながら、何がいるのかな、これを用意したらどうかと考えながら、試行錯誤されていることが見られた。

◎製作したものとはとても発想が豊かで携帯のデコレーションや花の形などとても素敵だった。

◎男の子の絵を描くことや製作についての先生の悩みが聞かれたが、遊びや製作の場面で、作っていないように見えても、自分なりに創意工夫している姿はないか、考えたり、見立てたりして遊んでいるかを焦らずに見てほしい。

【4歳児】

◎製作の場面では、子どもたちが、こんなものを作りたいから作る。友達と一緒に5歳児と一緒にしたいからこうするという姿が見られ、ハロウィンからの遊びの積み重ねが感じられた。

◎ステージでの発表は、とても自信をもってフルコーラスを堂々と歌っていた。

◎振り返りについて現在、試行錯誤されているとのこと。今日の振り返りで先生が子どもの言葉に付け足して、「高速」、「進化」等の言葉を添えておられた。子どもたちの語彙の広がりにつながる援助が見られた。自評で、「振り返りで話し過ぎた」と言われたが、先生の聞きたい気持ちの子どもに伝わったと思う。子どもたちにも楽しそうだと期待する姿が見られ、共感の言葉も多く聞かれた。

◎今後さらに工夫するとすれば、子どもが言っ

たこと、例えば、ここが、あれが、ことそこがと言ったことを言語化する工夫や、「それは〇〇ちゃんも言ってたね。」「〇〇ちゃん一緒にだね。」など子どもと子どもの関係をつなぐ言葉がけを意識するとよいのではないかな。

【5歳児】

◎友達と街づくりや病院ごっこをしていたが、子ども同士相談したり、役割分担する姿が見られた。5歳児は子ども同士の相互作用や、役割機能の意識が高まって、自分の役割を意識して遊ぶ姿が見られる時期である。

◎振り返りの場面では、子ども同士で、問いかけや感じたことを発言する姿が見られた。

◎話していない子もいるが、みんなを取り上げることは難しいので、遊んでいたグループや、テーマを決めて振り返ることもよいかもしれない。

◎共感的な遊びが発展していく時期なので、一人では、思いつかないことも友達と一緒に、気付いたり、考えが浮かんだりする。相互作用を支え、創意工夫の楽しさを感じるように援助することが大切であると考え。

◎保育者としては、自分の想定外のことを見つけることを専門職として楽しんでほしい。

【全体に向け】幼児クラスは、今日は外遊びの様子が見られなかったが、身体が解放されると、身体的な自由度が生まれ新しい発想が生まれてくる。外遊びもまた、子どもたちと創意工夫して作ってほしい。



★ベネッセ教育総合研究所「これからの幼児教育」編集部の皆さんの取材もあり、参加の皆様と共に学んでいただきました。タンポポこども園の皆様には取材対応もお世話になりました。ありがとうございました。



## 乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 令和7年1月30日

発行者 舞鶴市乳幼児教育センター

## 「学びを深める 学びをつなぐ」連携を目指し、第4回保幼小連携研修を実施しました

今年度も、架け橋期(5歳児～1年生)の子どもの姿や学びを保育者も教員も互いに理解した上で、「学びを深める 学びをつなぐ」保幼小連携を目指し、連携協力園校(園校)で連携活動に取り組んでいただきました。今後も、連携活動を計画されている園校もありますが、12月17日に今年度の取組を振り返る第4回研修会を実施しました。

研修会では、連携活動の充実に向け園校で共有したい「連携活動において期待する子どもの姿」と充実に向けた「4つの視点」に基づき、取材させていただいた園校での実践を紹介しました。

また、学校教育課 青木指導主事とともに、ルンビニこども園 松本夢香先生と福井小学校 齋藤ひとみ先生には、ルンビニこども園・福井小学校の連携活動について、実践報告を行っていただきました。

この園校は、バスでないと移動ができていく距離にあり、連携活動の回数は限られていますが、先生同士が互いの意見を尊重しながらプログラム(活動内容)を立て実践し、子どもの姿から実践を真摯に振り返り、期待する姿を再確認して次のプログラムや環境の設定にいかしておられました。

そのため、5歳児も1年生も、それぞれが自分らしさを発揮しながら一緒に活動する中で新たな気づきを持ったり、意見が合わない時には折り合いをつけながら同じ目的に向かって取り組み協同性を育んだりすることにつながっていました。

研究協議1では、「4つの視点」をもとに、各園校での連携活動を振り返っていただきました。

研究協議2では、保育者と教師にわかれ、協議1での振り返りをもとに、今後、各自の保育実践や授業で取り組んでいきたいことについて交流していただきました。

参加いただいた先生方には、連携活動の充実はもとより、これからの各自の実践にいかしていただくとともに、自園・自校において保幼小連携研修での学びを広げていただくことを期待しています。

## 参加園/校

やまもも保育園	うみべのもり保育所
中保育所	朝日幼稚園
朝来幼稚園	永福こども園
岡田こども園	シオン幼稚園
昭光保育園	相愛こども園
平こども園	橋幼稚園
タンポポこども園	なかすじこども園
東山こども園	ルンビニこども園
舞鶴こども園	池内幼稚園
倉梯幼稚園	志楽幼稚園
中舞鶴幼稚園	ひばり幼稚園
舞鶴聖母幼稚園	
朝来小学校	余内小学校
大浦小学校	岡田小学校
倉梯第二小学校	志楽小学校
高野小学校	中筋小学校
福井小学校	三笠小学校
由良川小学校	吉原小学校
	与保呂小学校

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿  
(三つの資質・能力)

## 保幼小連携活動年間計画

## 連携活動における期待する姿の明確化



## 連携活動の充実のための4つの視点

- ◎子どもの興味・関心(意欲、好奇心など)
- ◎一緒に活動(つくる 対話するなど)
- ◎環境の工夫(教材)
- ◎学びを引き出す関わり(待つ 問いかけなど)

## ルンビニこども園・福井小学校の保幼小連携活動 ～実践報告より抜粋～

## 期待する子どもの姿

- 5歳児 自分の思いや考えを自分の言葉で伝え、工夫したり協力したりして、意欲的に活動しようとする
- 1年生 自分の考えたことを伝えたり、行動に移したりして、粘り強く挑戦する

## 互恵性のある連携活動にしたい！

## 7月 水でっぼうあそび

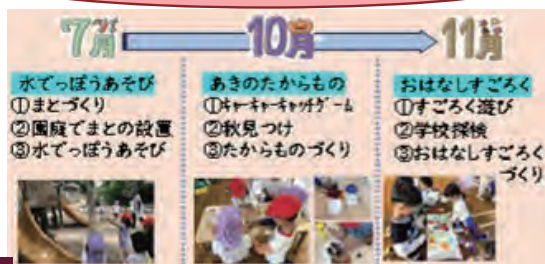
- 思考を繰り返す姿
- 気付いたこと・考えたことを言語化する姿

一緒に活動 「試行錯誤」できる活動にする

学びを引き出す関わり 思考を促す「言葉」をかけた「振り返り」を丁寧にしたりする

7月の「水でっぼうあそび」では、『どうしたら遠くまで水がとぶのか』を考えさせたいと、環境の工夫として、用意する材料は、マヨネーズなどの容器やペットボトル、ナイロン袋という、シンプルな材料にされました。

的は、グループで手作り、ぶら下げる場所も相談します。張り切って容器を使って水を飛ばそうとしますが、容器の上まで水がうまく入らず、遠くまで飛ばません。水をたくさん入れたり容器の押し方を変えたりして、的をねらいます。また、ナイロン袋に穴を開けるのにはさみや名札の安全ピンを使ったり、ジップロックの持ち方を変えたりするなど、水をどうにかして遠くに飛ばしてのちに当てようと、繰り返し工夫する姿が見られました。





ルンビニこども園・福井小学校の保幼小連携活動 ～実践報告より～

先生たちは、「こうしたらいいよ」とは言わず、「どうしたら飛ぶのかなあ」「友達に聞いてみたらどう？」と言葉をかけられました。  
振り返りでは、気付いたことや考えたこ



子ども達が考えたり、自分で気付いたりするための声かけを意図的に行うことが大事だと感じました。



とをたずねられました。保育者が、子どもの言葉をよく聞き、「なんでできたん？」「どうしたらできたん？」と丁寧に問われることで、いつも以上にたくさん話をしたり進んで発言したりする子が多かったそうです。

## 12月 おはなしすごろく

- 自己発揮する姿
- 考えを出し合い、協働する姿

**子どもの興味・関心** 子どものやりた  
いことを大事にする

### 環境の工夫

紙袋を使い、工夫を引き出す

**一緒に活動** 図画工作科（他教科）とつ  
ながる活動にする  
対話しながら思考や気付きのある活動にする

12月の連携活動は、「学校探検をしたいという子どもの思いを大切にしたい」と、学校探検＆教室クイズ大会をしようと計画されました。学校探検での気付きをクイズにすることで、よく見て、気付きがたくさん持てて、伝え合うこともできるのではないかと考えられたからです。ですが、何かしっくりなくて、2回目の事前の打ち合わせで、1年生が図画工作科で「おはなしすごろく」を作ったことをいかし、学校探検バージョンのすごろくを作ることに変更されました。

はじめに、1年生が作ったすごろくで遊ぶことで、活動の見通しにつながるようにされました。すごろくを知らない5歳児も遊びながらイメージを広げていました。

完成することが目的ではなく、対話しながら作る事が中心です。環境の工夫として、材料も紙袋を用意



され、「どんな形がいいかな。開き方も相談してね」と投げかけられました。  
グループで2つを別々に作り合体させた子たち。ゴールと見せかけて、めくるとまだ続きがあるしかけを考えた子たち。

様々です。

積極的にでなかった5歳児もいましたが、折り紙を用意していたので、それをマスとして好きなところにはることで、グループの友達と一緒にやり続ける姿が見られました。それぞれのアイデアを出し合って協力しながら楽しんで遊んでいました。



保育者・教師の反省として、学校探検をスタンプラリー形式にしたため、子ども達にとって、じっくりと見るよりも、スタンプを押すことがメインになってしまったので、各部屋で気付いたことをメモできるようなものにしてもよかったかなと振り返られました。

最後に、1年間の連携活動を通して、先生方の気付き・学びとしてこう話されました。



活動を通して1年生が知っている言葉や発想が年長児にはないもので、とてもよい刺激になっていました。何かを教えてあげたり、伝えたりするような活動でなくてもそのような姿が見られるんだと感じました。



最初の保幼小連携の研修会で、私の知っているこれまでできていた活動（1年生主導の活動「学校紹介」や「秋のフェスティバル」）ではなく、「互恵性のある活動でなければならない」ことを知り、衝撃でした。じゃあ、具体的にどんな活動がよいのか、自分の中でよく分からないままのスタートでしたが、3回の活動を通して「とにかく子ども達が一緒に考えたり、悩んだりしながら、楽しめる活動であること」が、それぞれの成長につながる活動だと感じています。

5歳児も1年生も主体的に活動に参加し、お互いが気付きを持ち、共有し合える活動を意識して取り組まれた連携活動の実践に、多くを学ぶことができました。

## 第4回保幼小連携研修 【参加者の感想より】

### ＜連携活動の実践報告や実践を振り返って＞

- 連携活動報告を聞いて、こどもたちのアイデアを出す声かけは本当に大切だと気付きました。私自身、すぐに答えを出してしまうこともあり、毎日反省なのですが、気を付けていきたいと思えます。
- 事前の打ち合わせが足りなかったと感じました。もっとしっかりと計画を立てて準備に活かし、こどもたちの主体性につなげられたらよかったと振り返りました。まだまだ教師がお膳立てしてやらせている感があると感じました。また、振り返りの仕方をもっと工夫して、成果物を見せながら話すといったこともできたらさらに意味あるものになると気付きました。

### ＜それぞれの保育実践・授業改善について、気付いたこと・考えたこと、今後にいかしたいこと＞

- 活動の中で、子どもへの声かけ、問いかけの難しさを、改めて反省

しました。子どもの気付きや考え、工夫したことを引き出せるように、日頃の保育の中でも意識していきたいです。保育士が意図していること、ねらっていることに向かわせてしまっていないか、振り返ることができました。また、連携活動での振り返りの持ち方が難しく、保育所で行っているやり方では、なかなか進まなかったの、次の活動につながるよう、それぞれの学び、気付きを共有できるやり方を考えたいです。

- どの学校も「子ども主体」「子どもの声から」を意識されていました。やはりどの教科ももちろんそうですが、生活科においては特に大事にしたいことだと思いました。子どもの声から進める中でも子どもの思いや願いを受けて、こちらからねらいを定めることは必要です。架け橋期のカリキュラムがより良くなるよう、意識していきたいと思えます。